TAKARABUNE EXHIBITION 2022

たからぶねを

KUMO WO TAGAYASU

SMF
Saitama Muse Forum

SMFアートの

宝船展

くもをたがやす

2022.3.16(水)→20(日)

埼玉県立近代美術館 地階一般展示室1

目次

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」へようこそ……1
　SMFの自己紹介　SMFアート長屋もよろしく
各出展者の出展記録・出展者メッセージ……2〜53
会場図面（作品配置図）　長野恒（SMF運営委員）……54
SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」トーク&ラウンドテーブル　柴山拓郎（SMF総務委員長）……55
各出展者のエントリーシート……56〜61
SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」アワード結果報告　石上城行（SMF副代表）……62〜63
SMF履歴書……64
SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」を終えて　三浦清史（SMF代表）……65（表3）

出展者「作品（プロジェクト、パフォーマンス）名」一覧（50音順、敬称略、末尾は掲載ページ）

1. **浅見俊哉**「アートコロニイトークン」、「本音会議2022」 p2〜3、56
2. **石崎幸治**「多視点風景写真 錯視陶器」 p4〜5、56
3. **石上城行**「石上城行 3年計画」、「自在式時間移動機 宝船展 2022バージョン」 p6〜7、57
4. **内野知樹**「コロナと空、人」 p8〜9、57
5. **小川真紀子**「月の兎」 p52〜53、61
6. **加藤こどもの造形教室**「その実り」 **加藤典子+加藤こどもの造形教室**「SOSぜつめつみき」 p10〜13、57、63
7. **かわにしすみえ**「無題」 p14〜15、57
8. **Hitomi Sato（佐藤仁美）**「ENN」 p16〜17、57
9. **シミズフローラルデザインスクール（清水和乃）**「生生流転」 p18〜19、58
10. **社会芸術／ユニットウルス（奥田祥吾）**「野良の藝術2021：evolve さぎ山の現場「鎮魂と再起」」
　ユニットウルスのプロジェクト報告展示、ダンスパフォーマンス：**蒼浩人**、環境カフェ：**多田満** p20〜23、63
11. **SYUTA（三友周太）**「耕雲機 Cloud Cultivator」 p24〜25、58、62
12. **suzu**「What color do you care about ?」 p26〜27、58
13. **田中清隆**「遊影装置」 p28〜29、59
14. **東京電機大学 作曲・音楽文化研究室（菅原聖秀）**「Collective Projection 2022」 p30〜31、59
15. **中村元**「写真 中村元の世界 淵・秋（ヒガン花と瀧の多重合成）」 p32〜33、59
16. **西尾路子**「羽が欲しく手」（エントリーシートのみ、作品展示なし） p34〜35、58
17. **根岸和弘**「花咲かアートさん−2」 p36〜37、59
18. **はたみき**「言葉も一緒に食べているんだ。」、「「の」が休んでいます。」 p38〜39、60
19. **菱田祐一郎**「RECORD_T41」 p40〜41、60
20. **平本仁一**「空とくもとそこから感じるもの」 p42〜43、60
21. **藤井香**「負の心持ちも 耕作すれば ダンスのはじまり」（ダンス出演：「退屈」**松元日奈子**、
　「お伺いまで」**小関有希**、「人間をやめるとすれば冬の鵙」**藤井彩加**） p44〜45、60
22. **M.HONDA**「車のある風景」 p46〜47、61
23. **三村豊子**「樹氷原の中で」 p52〜53、61
24. **みゃうか**「つのをむく」 p48〜49、61
25. **矢花俊樹**「ワークショップ《風景の外側に集う虫たち》」 p50〜51、61
26. **山口素子**「星はいつも静かにささやいている」 p52〜53、61

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」会場イベント

3月16日（水）〜18日（金）
　藤井香チーム ダンスパフォーマンス「負の心持ちも 耕作すれば ダンスのはじまり」公開リハーサル
　（16日・17日「退屈」松元日奈子／18日「退屈」松元日奈子、「人間をやめるとすれば冬の鵙」藤井彩加）
3月19日（土）
　社会芸術／ユニット・ウルス＋多田満「環境カフェ」（Zoom併用）第1回
　蒼浩人ダンスパフォーマンス「見沼の笛」第1回（協力：石引康子）
　藤井香チーム ダンスパフォーマンス「負の心持ちも 耕作すれば ダンスのはじまり」公開リハーサル
　（「退屈」松元日奈子、「お伺いまで」小関有希）
　SMF「くもをたがやす：トーク&ラウンドテーブル」第1回
　浅見俊哉・渡辺範久「本音会議」
　菱田祐一郎プロジェクションパフォーマンス
3月20日（日）
　社会芸術／ユニット・ウルス＋多田満「環境カフェ」（Zoom併用）第2回
　蒼浩人ダンスパフォーマンス「見沼の笛」第2回（協力：立松節子）
　藤井香チーム ダンスパフォーマンス「負の心持ちも 耕作すれば ダンスのはじまり」全3プログラム上演
　（「退屈」松元日奈子、「お伺いまで」小関有希、「人間をやめるとすれば冬の鵙」藤井彩加）
　SMF「くもをたがやす：トーク&ラウンドテーブル」第2回

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」へようこそ

「宝船展」は、実現したいと思うアートプロジェクトの素を夢として自由に語り表現するアンデパンダン形式の展覧会で、ぼくたちSMF（サイタマミューズフォーラム）を象徴する企画のひとつです。展示された作品やアイデアが、意外な人との出会いによってあらたに動き出し、この展覧会で出会ったもの同士がつながり、さまざまな活動が発生し、あらたな作品が出現する、そうしたアートのプラットフォーム、フォーラムがSMFです。

埼玉県立近代美術館との共催により開催されるこのSMFアートの宝船展2022「くもをたがやす」は、コロナ禍で変則的な開催となった一昨年、昨年の宝船展の続編です。旧大宮図書館に浮かぶ多数の「くも」を熊手で引き寄せてぼくらの夢を貼りつけた一昨年の「宝船展くもをつかむ」、その夢はそのまま漂い昨年の「宝船展2021@MOMAS」にたどりついたのですが、続編は本編を越えられないとの通例を覆そうと今回は「たがやす」のです。耕し、手をかけ、夢を熟成させるのです。新たな夢の種を「くも」に蒔くのもいい。その「くも」を耕すのもいい。「くも」を下から眺め虹を待つのもいいでしょう。どんなふうにでも参加できるのがこの宝船展、みなさまのご参加大歓迎です。

SMFの自己紹介

SMFは既成のジャンルにとらわれない自由な視点からさまざまなアートプログラムを企画し、アートをめぐって多くの人がつながっていくためのプラットフォームです。

SMFはさまざまな生き方をしてきた人が集い、触発し合いながら、まだ見たことも聴いたことも経験したこともないようなモノゴトを創りだすこと、これまで見えなかったモノゴトが見えるようになること、これまでとモノゴトが違って見えるようになり、生きることが豊かになることを目指して活動します。

SMFは埼玉県立近代美術館に事務局を置き、埼玉県内各地のミュージアムをキーステーションとし、美術、建築、音楽、文学、ダンス、パフォーマンス、地域活動など、さまざまな領域のメンバーで活動し、そのための事業を企画立案し開催します。

SMFアート長屋もよろしく

SMFではオンラインの展覧会SMFアート長屋を運営しています。昨年行った「サイタマアートコロニイプロジェクト−ヒアシンスハウス編」のアーカイブも公開しています。

http://artnagaya.jp にアクセスして覗いてみて下さい。

ART PROJECT

本音会議

HONNE MEETING

8th HONNE MEETING
2021.3/19 15:30-17:00
本音会議チーム
浅見俊哉・渡辺範久

ねらい！

今日のアートの場を改めて考える場をつくりたい。その第一歩は、様々な「本音」を共有すること。「本音会議」は、現場の「本音」を紡ぎ、そこで得た経験知を共有する場。2017年より様々な場所で不定期開催している「本音会議」。参加者がそれぞれの現場で得た経験知を共有する事で、丈夫な根を生やし、育てていけるタフなアートの場の創造の一助となることを目指し活動している。

第１回：2017.1/14 @埼玉県立近代美術館
第２回：2018.10/13 @川越市立美術館
第３回：2018.12/22 @コシガヤアートポイント・ラボ
第４回：2019.1/20 @埼玉県立近代美術館
第５回：2019.3/30 @さいたま市市民活動サポートセンター
第６回：2019.12/28 @旧大宮図書館
第７回：2020.6/5 @ONLINE

ことばのもつエネルギー！！

本音展示！

今回展示した「本音」は、第4回本音会議～第6回本音会議に参加した参加者が「さいたま市で2020年に開催される芸術祭に期待することは？」の質問に回答したもの。さいたまで2回目となる芸術際「さいたま国際芸術祭2020」は、2020年3/14-5/17の会期予定だったが、新型コロナウイルスの影響で延期となり、しばらく再開の目処が立たなくなった。そして4/7には緊急事態宣言が出され未曾有の事態に突入、オープンを目前にした芸術祭会場の扉は閉ざされた。その時、会場の扉の脇のガラス面にこれまで集めてきた「本音」を2回に分けて展示した。1回目は5/19-7/21。2回目は7/21-9/24。再開の目処がたったその瞬間まで、「本音」は静かに声を放ち、現場には、その声に励まされ制作を続ける関係者たちがいた。2020年10/17-11/15に芸術祭は再開され、現場では、「本音」を放ってくれた人とはもちろん、「本音」をみていて気になっていた人たちとの再開や交流があった。残された「本音」は音の波長として届く距離を超えて、様々な時間を繋いだ。

アートプロジェクトは鑑賞できるの？？

RPG 鑑賞！

RPG鑑賞とは、主にアートプロジェクトを鑑賞するための１つの提案として今回の「本音会議」で実施された。この鑑賞方法は、アートプロジェクトに参加する人たちは、「モード」と「属性」によって作品との関わりに大きな影響を受けているという現場の肌感覚から生まれたもので、その「モード」と「属性」の設定をロールプレイ（ロール（role）「役割」とプレイ（play）「演じる」を組み合わせた言葉）することでアートプロジェクトを鑑賞するという試みである。アートプロジェクトは不動のものではなく、様々な要素の影響を受けながら変化していく、それを観る人間も同じように変化の中で作品と出会うことから、RPG鑑賞は様々な「鑑賞設定」をロールプレイすることで鑑賞者へ多面的、多層的な視点で作品を観ることを促す。ゲーム感覚で鑑賞を進め、他の参加者の言葉を共有することで一層、作品との関わり、意味の創造の幅が広がると考える。

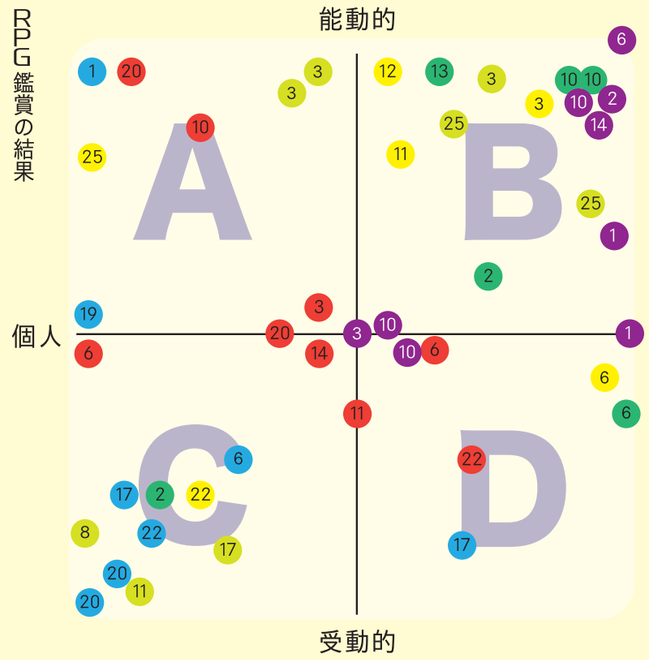
RPG 鑑賞の手順

❶「鑑賞設定」になりきる！
今回は３種の「モード」と３種の「属性」でプレイ！

❷「鑑賞設定」で作品を鑑賞する！
今回は「宝船展2022」に展示されている26作品を対象とし、それぞれの設定に合うと考える作品１点を選択。

❸ グラフにプロットする！
今回は縦軸を「能動的」「受動的」、横軸を「個人」「集団」の項目とした。シールでグラフに貼る方法を試みた。

❹ 意見交換する！
感じたことや考えを参加者どうしに伝え合う。



表のみかた

色は「鑑賞設定」、番号は「宝船展 2022 作品番号」を表す。参加者は９名：計 46 の回答を得た。
今回は、鑑賞設定を「モード」・「属性」それぞれ３種類、計６種類を設定し RPG 鑑賞を行った。

「モード」

主に気分の変化に着眼して設定を考えた。気分の変化により、作品のセレクトにはどのような効果があるか探った。

- わくわくしているとき
- 大切な人といるとき
- 挫折・落ち込んでいるとき

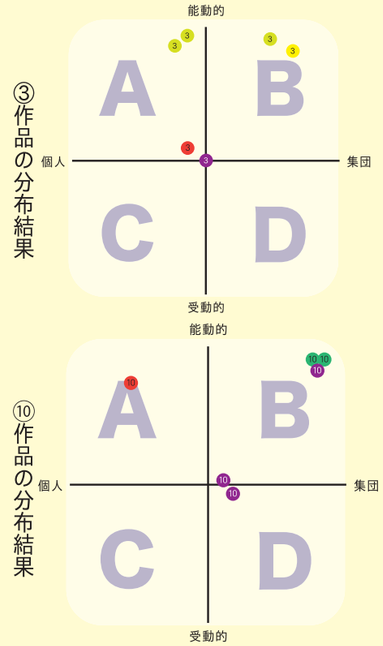
「属性」

主に年齢や社会的役割、立場などの設定から作品のセレクトにはどのような効果があるか探った。

- ５歳の子どもがいる親
- 小学生
- 市長

●RPG 鑑賞の所感

RPG鑑賞を行った印象は、1人の人間が６つの「鑑賞設定」により、選ぶ作品が全て異なることが興味深い。また同じ作品でも、人によっては「鑑賞設定」が異なる場合や、同じ「鑑賞設定」でもプロットする領域が異なったりする。一方、同じ「鑑賞設定」でプロットする場所が近い結果が得られる作品もあり、それらの結果から対象の作品の持つ要素や性質を発見することも可能であると考える。興味深いのは、「大切な人といるとき」のプロットの分布が中央付近に、「市長」のプロットの分布がほぼ「B」のエリアに集まったことだ。意見交換の中で、「大切な人といるとき」は、「影響の少ない、脇役で寄り添うような作品」「ひとりでもふたりでもいろいろな感じ方ができる作品」といった理由での作品選択が多かった。「市長」は、「次世代にも伝えたい作品」や「たくさんの人とつくり上げていく作品」「課題の共有できる作品」といった理由での作品選択が多かった。それぞれの「鑑賞設定」により、作品と自分の関わり方の違いを意識し、意味や価値を生み出していた。



●作品の「鑑賞設定」による分布からわかること

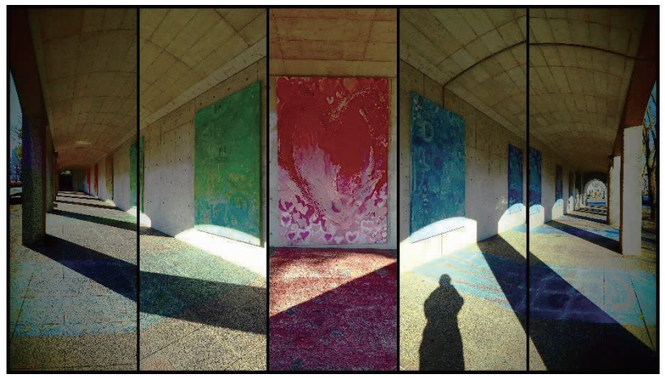
作品の分布に着眼して考察を行ってみる。まずは③作品の結果について。
③の作品を選んだ人は全体の13.3%となり、最も選ばれた作品の１つとなった。その中で、「鑑賞設定」は「小学生」で50%となり、グラフの「A」、「B」領域にプロットされた。「小学生」が能動的に関わる作品としての要素を鑑賞の中で感じた参加者が多かったことが伺える。意見交換の中でも、「中に入って遊べる」「秘密基地みたい」「カラフルで楽しい」「狭いところが好きだった体験とリンクした」などの意見が飛び出した。
⑩の作品も選んだ人は全体の13.3%となり、最も選ばれた作品の１つとなった。その中で、「鑑賞設定」は「市長」で50%となり、グラフの「B」、「D」領域に多くプロットされた。「集団」の要素を鑑賞の中で感じた参加者が多かったことが伺える。意見交換の中でも、「社会生活をこどもと考えて伝え合える」、「教育によい」、「活動を通して新しい仲間をつくる」、「突破力を感じる」、「地域の文化を集団で守る」などの意見が飛び出した。「市長」という「鑑賞設定」を通して、自分自身の個人的な趣味趣向を超えて、集団に関わる作品の選択がされたことが伺える。今回、選択されなかった作品はどのような「鑑賞設定」なら選択されるのか考えることも、鑑賞の有用な手立てになると考える。

●RPG 鑑賞の可能性

今回のRPG鑑賞を通して、ゲーム感覚で作品を鑑賞することで、意気込みすぎず作品との関わりについて語り合う場ができたことが収穫だった。絶対的な正解が作品にあるのではなく、「作品も自分自身も変化する中でその関係もつくられていく」ことを受容でき、それを「本音」で語り合えるなら、アートの場はより活性化していくと考える。

多視点風景写真

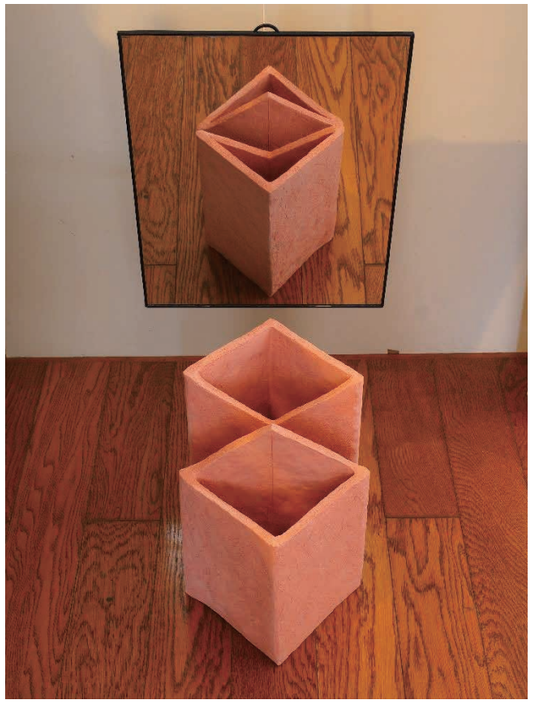
風の広場（稲城市長峰）



回廊（稲城市向陽台）

記念樹（稲城向陽台小学校前広場）

錯視陶器



（写真）多視点で描かれた絵画はあるが、多視点写真は光学的に難しい。画面を分割して撮影できる機能を使って多視点写真を制作した。現実を借りて私が創り出した写真の世界である。

（焼き物）粘土をこねて作る焼き物は思い付くどんな形も作ることができる。でも誰も作ったことがない独自の形を創り出すのは案外難しい。見る角度で形が全く違って見える器を作った。

石﨑幸治（いしざき　こうじ）　1947 年東京生まれ　早稲田大学商学部卒　写真家・水彩画家・随筆家　焼き物制作は趣味である。

（受賞歴）第 9 回千修イラストレーションコンテスト　ソトコト賞　環境フォト・コンテスト 2016　環境大臣賞と環境フォト大賞　第 3 回　サイエンスフォトコンテスト　最優秀賞　フォトゾフィオ 2021 と 2022　連続入賞　その他入選・受賞多数

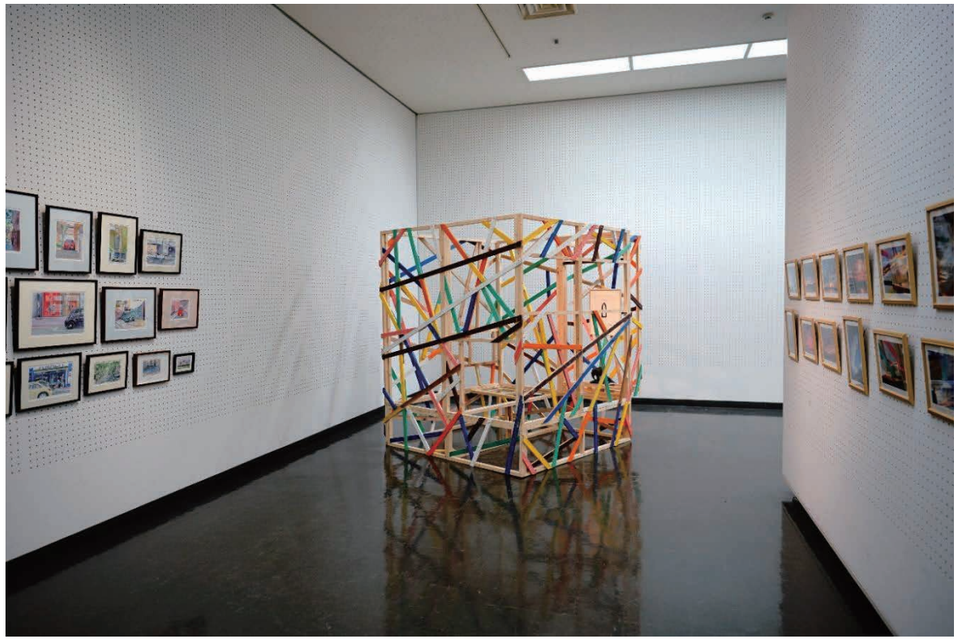
（著書）稲城三十六景（インターメディアリー）名城発見（KK ベストセラーズ）桶屋一代江戸を復元する（筑摩書房）など

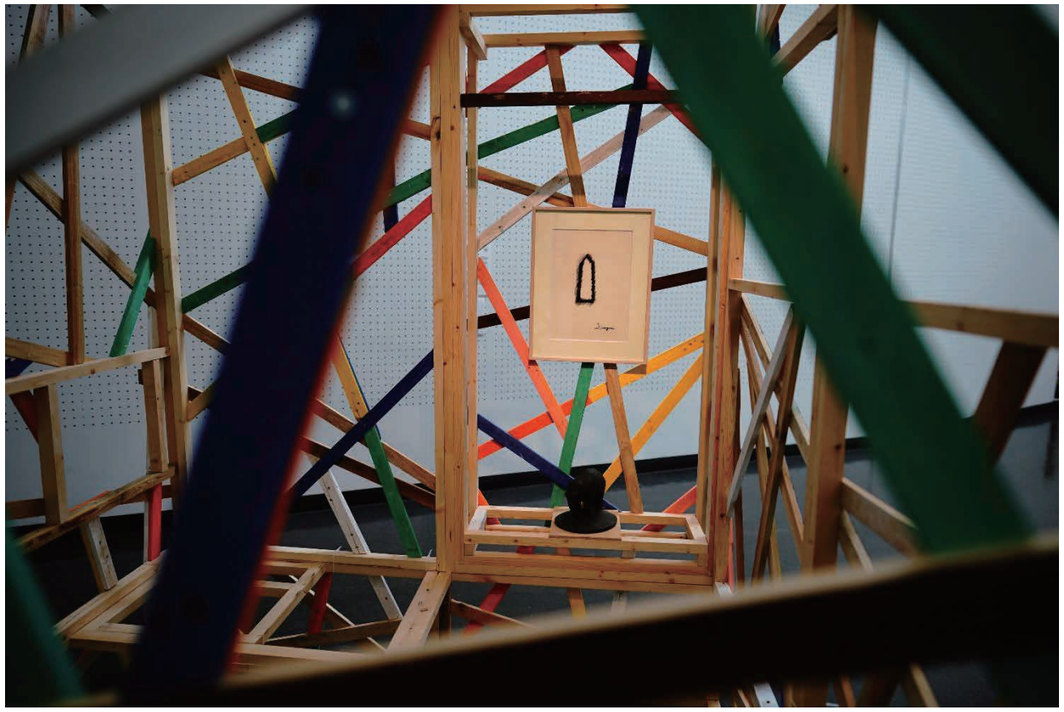
「自在式時間移動機宝船展 2022 バージョン」

今回、出展した作品は「さいたま国際芸術祭レガシー事業」の「SACP（さいたまアートセンター プロジェクト）2022」アウトリーチプログラムで制作した作品である。アウトリーチプログラムでは、さいたま市のアートに関心のある大学生に参加してもらい、様々なレクチャーを通じてアートプロジェクトやアーツセンターなどのプランを検討、発表してもらった。私がそのプログラムの講師を担当した関係で、私自身も改めてアートプロジェクトやアーツセンターについて考えてみた。

アーツセンターとは、様々なアートにまつわる情報（アーカイブ）や、機能（ワークショップや展示、講座やディスカッションなど）が集約された施設で、美術館と図書館とアトリエを合体させたようなものと考えるとわかりやすい。あまりに要素が多様なのでどの要素を中心に施設を構成するかは、それを使う人々のニーズによって大きく異なる。そこで私なりにアーツセンターを考えてみた結果、生まれたのが今回の作品である。まず私はアーツセンター機能として「鑑賞」と作品を通じた「対話」に拘りたいと考えた。そもそもアート作品は時代を反映した存在である。過去のアート作品に接することはその時代の空気に触れることであり、新しい作品のアイディアを構想することは未来を回遊する旅に他ならない。自由に時間を跳躍し、あらゆる空間にアクセスする行為、それが私の考える鑑賞であり、それが行われる場所が私の夢想するアーツセンターである。

具体的な作品の形状は、カラフルに着色した木材を用いて造形したキューブ状の建屋（茶室）である。重なり合う木材には大小の隙間があり内と外の世界を曖昧に隔てている。内部に床の間のようなしつらえを設け、ジャンにとらわれないボーダレスな作品鑑賞の機会を提供したいと考えている。鑑賞する際は建物の中に座り作品と無言の対話をする。作品との対話が時空を超えた自己との邂逅であるとすれば、そこでは過去・現在・未来の自分自身と対峙することができるだろう。私はそんなアートの力を顕在化したいと考え「自在式時間移動機宝船展 2022 バージョン」を提案・出展した次第である。





© Shunya Asami（2 枚とも）

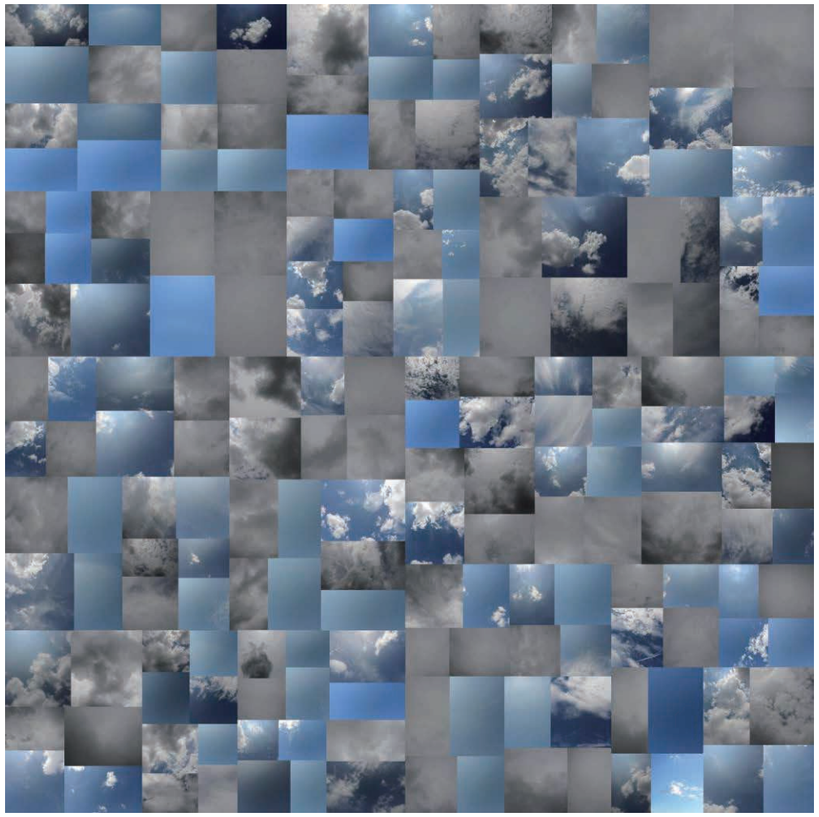
「エントリーシート（夢のシート）」では「石上城行 3 年計画」と題して 2 つの試み、『大規模個展の開催』と『仏伝図の制作』を提案した。大規模個展についてはどうなるかわからないが、仏伝図については、すで試みがに始まっている。茶室の床の間に展示した作品がそれにあたる。床に置いたオブジェが仏伝（釈迦八相図）における「下天入胎」で、壁に飾ったドローイングが「涅槃」を私なりに解釈して表現している。

「下天入胎」は仏陀が人々を救うために兜率天から下向し象の姿をかりて、釈迦となる子どもを産む女性の体に入る「夢」というエピソードで、仏陀は度々象の姿で象徴的に表現される。「涅槃」は一般的に釈迦（仏陀）が亡なる場面のことだが、亡くなったのち遺体は火葬され遺骨を弟子が故郷に持ち帰りストゥーパ（塔）を建て埋葬した、という説話を塔の姿に託して描いてみた。これらはいずれも仏伝における重要な場面であり、今回私なりにそれぞれを象徴する形象として表現している。つまり私が目指す仏伝図は単なる絵解きではなく、より抽象性を高めた在り方を模索しているのだ。

そもそも故人の偉業を伝える説話は、時の経過とともに表現が過剰になる傾向がある。それは、実際に起こった出来事の意味を何とかして伝えようとした結果であり、伝達者の創造性に富んだ工夫の痕跡とみることができる。私はその工夫する行為に注目し、私なりの解釈を経た仏伝図の一部を今回提示してみた。まだまだ未整理で稚拙な表現ではあるが、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

石上城行

内野 知樹 「コロナと空、人」2022



SMFアートの宝船展2022「くもをたがやす」

作　品　名	コロナと空、人
作　者　名	内野知樹
制　作　年	2022年
制作日数	7日
技法・材質	写真

「くもをたがやす」と出展作品の関わり

新型コロナウイルスの感染が拡大するここ2年ほどは不自由な生活をよぎなくされ、多くの人にとって頭の中で雲という夢をたがやすような期間だったのではないか。私は10年以上毎日空の写真を撮っているのだけど、コロナ禍でも変わらず空に向けてシャッターを切っていた。空と雲は一体であるし、この期間をたがやすことに費やしたとするなら、どうにかして具象化してみたくなった。単純ではあるけど、2年ほど撮り続けた空の写真とコロナ、人間と結びつけて表現してみたい。

作品制作にまつわるエピソードなど

今回空の写真をL版サイズで720枚展示する。きりよく並べる関係でこの枚数になってしまった。L判というととても小さなサイズではあるけれど、720枚も隙間なく並べると結構なインパクトになる。特徴的なある日の空を大きなサイズにして何枚か展示することもありなのかもしれないと思いつつ、やはり小さくとも切れ間なく展示してその全てを一つの作品とするほうがより伝わると思い至った。

くもをたがやす

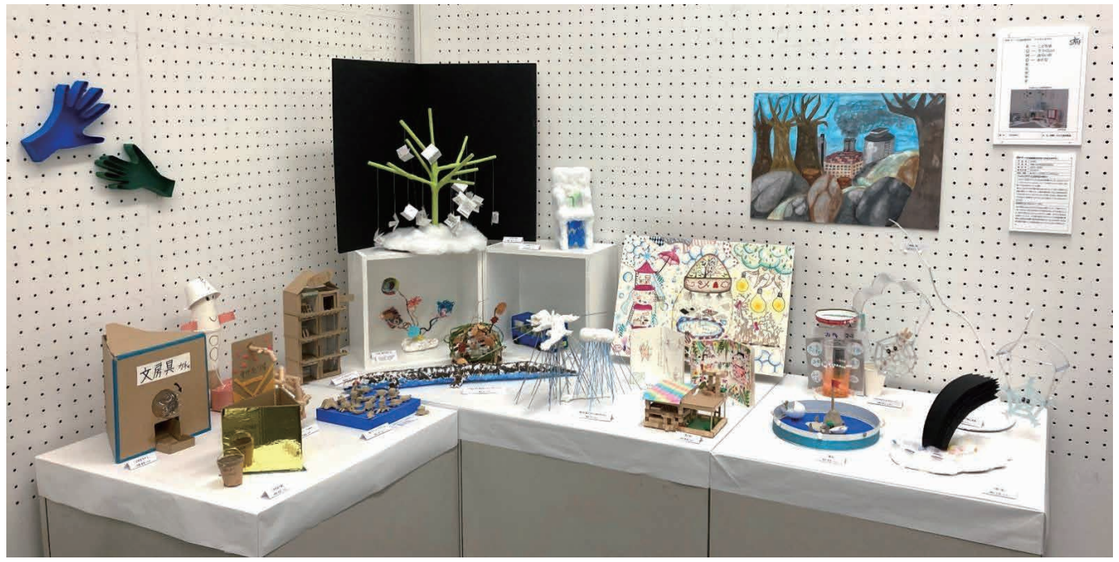
K こどもは
U うつくしい
M みらいの
O おとな

「その実り」

加藤こどもの造形教室

「くも」とは一体何か？「くも」を KUMO と書き換えると、
「K こどもは、U うつくしい、M みらいの、O おとな」というイメージが浮かび上がってきた。
まさに、たがやすべき対象を指し示していることに驚く。こどもそれぞれの感受性は自らの手によって、
あるいは他者からの導きや刺激によって、取り巻く環境によってたがやされていく。
そこに蒔かれた種がどのような花を咲かせるのかは種の中身を観察してもわからない。
わかるためには、育てるという時間が必要なのだ。
そういう時間をともに過ごす中で学び合う、想定外の作品ならさらにおもしろがる、それはこどもも私もだ。
そして咲く花は「いつか」。
未知であるからこそ「こども」はいつだって「うつくしいみらいのおとな」へのゆめを見せてくれる。

こどもが、興味のあることを自由に表現するには、時間にとらわれないことも重要だ。
つくり続けたいという思いがあれば、同じ作品を長い時間をかけてつくることもある。
また、手を動かすことは、学校や日常生活でのこどものストレスを癒し、和らげる効果もあると感じている。
しかし 2021 年度は、新型コロナウイルスの影響によりこどもの外出を控える保護者が増えたことや、
学級、学年閉鎖などもあって、しばしば制作時間が削られ、自己表現の解放や癒しとしての時間が、
抑えられてしまったことはとても残念であった。



「幸せ売り場」

「雲の行進とびしょぬれのヘビ」

「木のみた夢」

「アオジタトカゲのレインスティック」

「雪の結晶、目的地に到着」

「青いバス」

「森の妖精の冬ごもり」

「環境汚染」

「宇宙で眠る星たち」

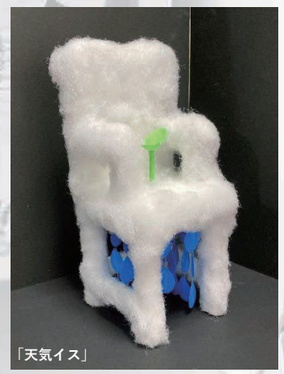
「水雲の空上」

「拠点」

「黒い虹」

「タピオカミルクティー」

「文房具ガチャ」


「天気イス」

「ぜつめつみき」

加藤典子＋加藤こどもの造形教室合作

第６の大量絶滅時代が迫っているという。
過去５回の大量絶滅は大規模な火山の噴火や隕石の衝突といった
自然災害や突発的な環境破壊等によって引き起こされたものだったが、
現在すでに進んでいる第６の「種」の大量絶滅は、私たち人類の活動によってもたらされたものだ。
みらいを生きるこどもたちへ。まずは、動物や生き物の姿、形態に興味関心を持ってもらいたい。
そして更に人類の活動を原因とする動物たちの厳しい状況を慮り、手を差し伸べる方法を自分なりに考え、
行動するおとなになって欲しい、そういう願いをこの合作作品に込めている。

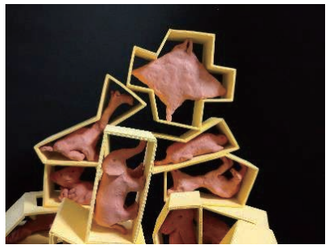
これは絶滅度という視点で捉えた「動物のかたち」と「積み木」の合体だ。
包み込むワクは「動物のかたち」を優先したので重ねてもきっちりとは揃わない面白さがある。
紙粘土での動物の立体造形は初めてというこどもがほとんどだったが、
その「かたち」は想像以上に純朴で心打たれるものがあった。
私はその「動物のかたち」の魅力を引き出すように段ボールで包み込み、
レッドリストに従って絶滅度を表す色を何重にも塗り「積み木」のような形体にまとめた。
また、様々な環境破壊を引き起こし自らも存続が懸念される「ヒト」(グレー)と、
私たちが知らぬ間に絶滅してしまった「想像絶滅種」(紫)というオリジナルのランクもつくった。
大好きな動物たちを積み重ねながら、それぞれの絶滅度も感じ取れる「ぜつめつみき」が出来上がった。

■「ぜつめつみき」のリスト

国際自然保護連合（IUCN）による「絶滅危惧種レッドリスト」のランク		つくった動物たち
EX	絶滅種	・ピンタゾウガメ　・オキナワオオコウモリ
EW	野生絶滅種	・ソコロバト　・シロオリックス　・キタシロサイ
CR	近絶滅種	・ニシゴリラ　・フタコブラクダ　・ミミセンザンコウ　・ラッコ ・インドガビアル　・ヨーロッパウナギ　・クロサイ　・コシジロハゲワシ ・シーラカンス　・メキシコサンショウウオ
EN	危機種	・トラ　・トキ　・マレーバク　・クロアシイタチ　・セスジキノボリカンガルー ・アオウミガメ　・ガンジスカワイルカ　・マクジャク　・アジアゾウ ・ナミエガエル　・メガネモチノウオ　・ケープペンギン　・レッサーパンダ ・エチゴモグラ　・メキシコウサギ　・インドライオン
VU	危急種	・ヒメアルマジロ　・フンボルトペンギン　・キリン　・コアラ　・リクイグアナ ・タヅナツメオワラビー　・ホッキョクグマ　・ワニガメ　・セイウチ　・ムフロン ・ホホジロザメ　・ハシビロコウ　・アフリカゾウ　・キーウィ　・キングコブラ ・オオアリクイ　・ジャイアントパンダ　・オニイトマキエイ　・アメリカヌマジカ
NT	近危急種	・ハハジマメグロ　・オオサンショウウオ　・タテガミオオカミ
LC	低懸念種	・キンメフクロウ　・イヌワシ　・プレーリードッグ　・ワシミミズク ・ハムスター　・ベルーガ　・タツノオトシゴ　・コウガイビル

※ 造形教室によるオリジナルのランク

	オリジナル 想像絶滅種	・メダマウオ　・ノロデビル　・オシリカタツムリ　・マルミフタユビ ・ニソクコネミン　・アツデヒトデ
	?	・ヒト



かわにし すみえ「伝統技法創作人形　無題」（着せ替え抱き人形２体）　2019 年

「こんにちは」

身長（丈）80センチ、ふたり組、抱き人形です

昔からある自然の材料つかっています

木の粉、貝の粉、木毛で出来ています

羊毛、絹のお洋服を着ています

お着替えができます

ほっぺなでるとだんだんつやつや光ります

「水色のカーディガン、昭和シルク」

極太毛糸のお花の編込みカーディガンです

昭和の着物、扇模様のプリントシルク総裏
仕立てです

裏地シルクの下着です

ズロースとペチコートです

「極細毛糸のカーディガン、三越小紋」

ピンクの編込みカーディガンです

三越呉服の小紋、三段ギャザーの
花柄装いワンピースです

総裏仕立てです

裏地シルクの下着です
ボリュームギャザーのズロースとペチコートです
す

SMFアートの宝船展2022「くもをたがやす」

作　品　名	無題
作　者　名	かわにしすみえ
制　作　年	2019年
制作日数	2年
技法・材質	桐塑（とうそ）、胡粉（ごふん）、膠（にかわ）、絹、木毛グラスアイ他

「くもをたがやす」と出展作品の関わり

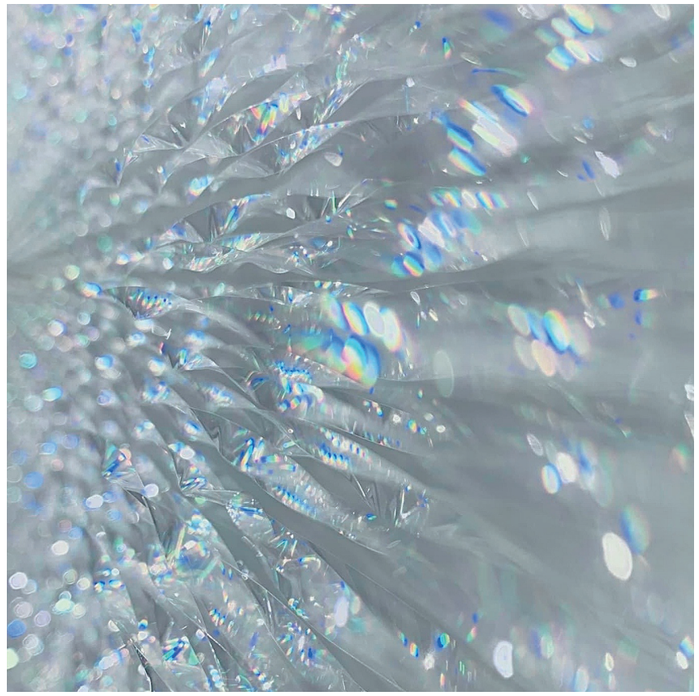
頭の雲をつかむように原型作成から。塗装胡粉磨き、衣装、小物など作業の都度都度の手間数の多さ。糊（のり）や粘土も自作します。徒労な作業も含めてせっせと繰り返します。

読み
桐塑（とうそ）=おがくず
膠（にかわ）=動物の皮
胡粉（ごふん）=貝の粉
生麩粉、粉生麩（しょうふこ、こなしょうふ）=のり、生麩のり
原材料
桐塑=おがくず（桐の粉、春日部の桐だんす）
膠=動物の皮（牛、ウサギ等）
胡粉=貝の粉（牡蠣など）
生麩粉、粉生麩=のり（例、障子のり）

概要
☆粉生麩糊:生麩の粉に熱湯を混ぜ焦がさないように練り上げる。デンプンなので食せるが腐敗するので作業分だけつくる。
＊桐塑：桐の粉末に正麩糊（しょうふのり）を混ぜて作った粘土。おがくず粉なので細部の再現性容易に可能、表面の足し引き加工を繰り返しすることができる。
＊胡粉：貝殻を焼き，砕いて粉末にした白色の顔料。光沢ある美白。彩色可能。
＊膠：動物の骨や皮などから抽出したゼラチンを主成分とする物質。工芸品の接着剤や日本画の顔料の溶剤などに用いられる。胡粉や膠は菓子の加工にも利用された。

作品制作にまつわるエピソードなど

衣装は着物、総裏仕立て。作業は大変。顔は楽しい、衣装は悩む



今回のアイデアは、2019年に韓国・オーストラリア・中国・アメリカへ行く機会あり、そこで思い浮かんだ。どの国へ行っても朝日や夕日を見れば、感動やインスピレーションが湧くのはなぜだろうか。見ているのは光なのか。色なのか。ある本の中に「遠い」ことによって、私たちの想像に繋がり、密度が関係することを知った。そこで、遠くを感じさせるために、光を分散させる素材を見つけ、光の密度をコントロールし、窓から風景を見るようなカタチの作品になった。(構想 2 ヶ月 , 制作 1 ヶ月)
2022 年2 月、個展で初公開。

E N N HITOMI SATO

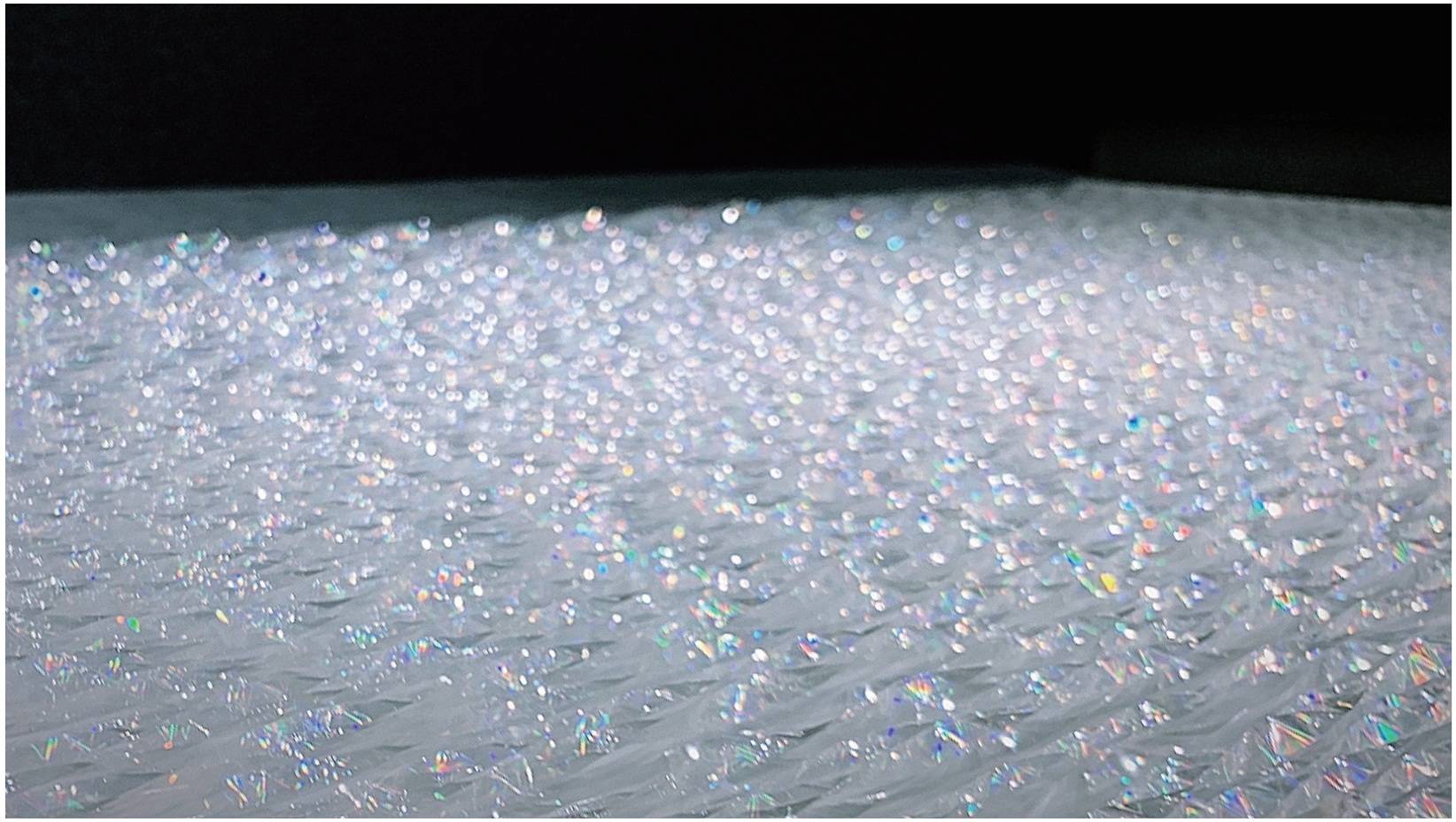
「 遠い 」をテーマにした作品　The Theme of "Far Away"

空と大地、その境界に浮かび上がる地平線を観ていると、どこからか想像する力が湧いてくるのはなぜだろう。

この作品は、遠く離れたところからは、白いフレームだけがあるように見える。しかし、徐々に近づいていくとフレームの端から小さな光が生まれ出ていくることに気づく。そして、ある地点を見つけると、わずか数センチのフレームから突如として数十万粒の光があらわれる。それはまるで陽に照らされて輝く海の水面のようであり、夜に向かうに連れてあらわれる星空のようでもある。ひとつひとつの粒をよく見ると、奥深くから溢れ出るかのように、さらに細かな光の粒子が虹色を纏ってうごめいてる。遠いようで近く、近いようで遠い。この得も言われぬ感覚こそが、想像することと強い結びつきを生み出しているかもしれない。

Why is it that when I look at the sky, the earth, and the horizon in between, I get the power of imagination?

From a distance, this work appears to have only a white frame. However, as you get closer and closer, you will notice that small particles of light are emerging. And when you find a certain point, hundreds of thousands of grains of light suddenly appear. It is like the surface of the ocean shining in the sun, or the starry sky appearing as night falls. If you look closely at each grain, you can see even finer particles of light swirling in rainbow colors, as if they are overflowing from deep within. It seems so far away, yet so close, yet so far away. This inexplicable feeling may be what creates the strong connection with imagination.



@hitomisatoart

wide 1500 high 750 depth 60 (mm) / 2 type of sheet

「宝船展 2022 くもをたがやす」に参加して

「生生流転」

シミズフローラルデザインスクール

清水和乃

今回無事にスクールの皆さんと参加することができて、大変嬉しく思いました。皆さんの感想をまとめてみました。

＊　この主題を考えるだけで、心がふわーと咲くような気持ちになりました。
　　心の中の山水が少しずつ思ったとおりの形になって、とても不思議な感動でした。皆さん一つずつ丁寧に作り、個性的な表現です。完成して、並べてみると 2 メートルのものですが、まるで一碧千山、流水人家・・・
山水千顔を眺め、くもの流れを感じ、諸行無常を念じ、少しの空間の中で乾坤があり、奥ゆかしい世界に入って、ひろがっていく趣のある作品になったとおもいます。

＊　久々に共同作品を作りとても楽しかったです。又参加したいです。

＊　美術館にスクールのメンバーで作成した作品を展示することができ、とても有意義な経験ができました。また次回も機会があれば参加したいです。

＊　スクールのメンバーが最後に一つの大きな作品となり、素敵な空間が出来上がりました。久しぶりの展示会で楽しかったです。

＊　久しぶりに美術館に足を運んで、いろいろな作品を拝見できて楽しかったです。勉強にもなりました。スクールでの各々の作品から大きな一つの作品に出来上がり対策になりました。コロナ禍久しぶりの出展ができ、楽しい思い出となりました。水の流れが見えるような作品だとおもいました。

＊　はじめての作品で楽しく制作できました。自分の作品だけでは、イメージが涌きませんでしたが、皆さんとのコラボレーションで、一つの完成品にできあがっているのは、とても感動でした。

コロナのために、スクールに来られる人も、制限されたなかで、15 人程度の方々が参加して、作りあげました。時間もかけられなかった中で、作品は未熟なところもありましたが、皆さん、楽しく作り上げることができました。美術館に久しぶりに出かけることもできました。それも皆、DMF の皆さんが、手をかけてくださいましたおかげです。本当にありがとうございました。

来年も参加させていただければと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

‘Art of Nora’

Art of Nora 2021
Social Art/Unit Ulus

Art of Nora 2021: Sagiyama - The Scene II: 'Requiem and Reawakening'

Dates: 12 (Fri), 13 (Sat) and 14 (Sun) November 2021
Venue: Farm In Sagiyama, Sagiyama Memorial Park (Midori Ward, Saitama City)
Organiser: Social Art/Unit Ulus
Planning: Social Art/Unit Ulus. Project leader: Ken Nemoto

SMF Takarabune 2022

Art of Nora 2021:evolve
Social Art/Unit Ulus

Dates: 16 (Wed)—20(Sun) March 2022
Venue: The Museum of Modern Art, Saitama
Organiser: SMF
Planning: Social Art/Unit Ulus. Project leader: Okuda Shogo

SMF 宝船展 2022 記録
野良の藝術 2021：evolve
さぎ山の現場「鎮魂と再起」
社会芸術／ユニット・ウルス

参加アーチスト：
奥田 祥吾
蒼 浩人 （琵琶：石引 康子／布彫刻：立松 節子
／龍神衣装：柳井 嗣雄）
根本 賢
柳井 嗣雄
吉田 富久一
映像：
大原 由
葭谷 昭
環境カフェ：
多田 満

事務局：
奥田 祥吾（担当）
丸藤 晃代
根本 賢
長谷川 千賀子
吉田 富久一

SOCIAL ART ulus
社会芸術／ユニット・ウルス

photo：Nakamura Gen

①

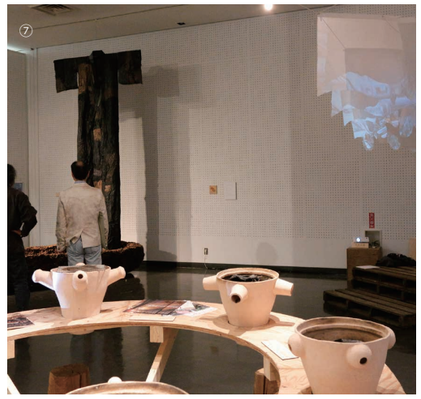
②

③

④

⑤

⑥


⑦

photo：Nakamura Gen

SMF 宝船展 2022 記録
社会芸術／ユニット・ウルス

参加アーチストと作品：

奥田 祥吾　①②③④⑦⑧　空間作品
蒼 浩人　③④⑧⑨　踊り「見沼の笛　布彫刻〜色・形・命〜」
（琵琶：石引 康子／布彫刻：立松 節子／龍神衣装：柳井 嗣雄）
根本 賢　①⑦　「火鉢サークル」の椅子、環境カフェ
柳井 嗣雄　①②⑤⑥　「古の岸辺」「失われた身体–亡者の着物」
吉田 富久一　①⑦　「火鉢サークル」本体＆土器火鉢、環境カフェ

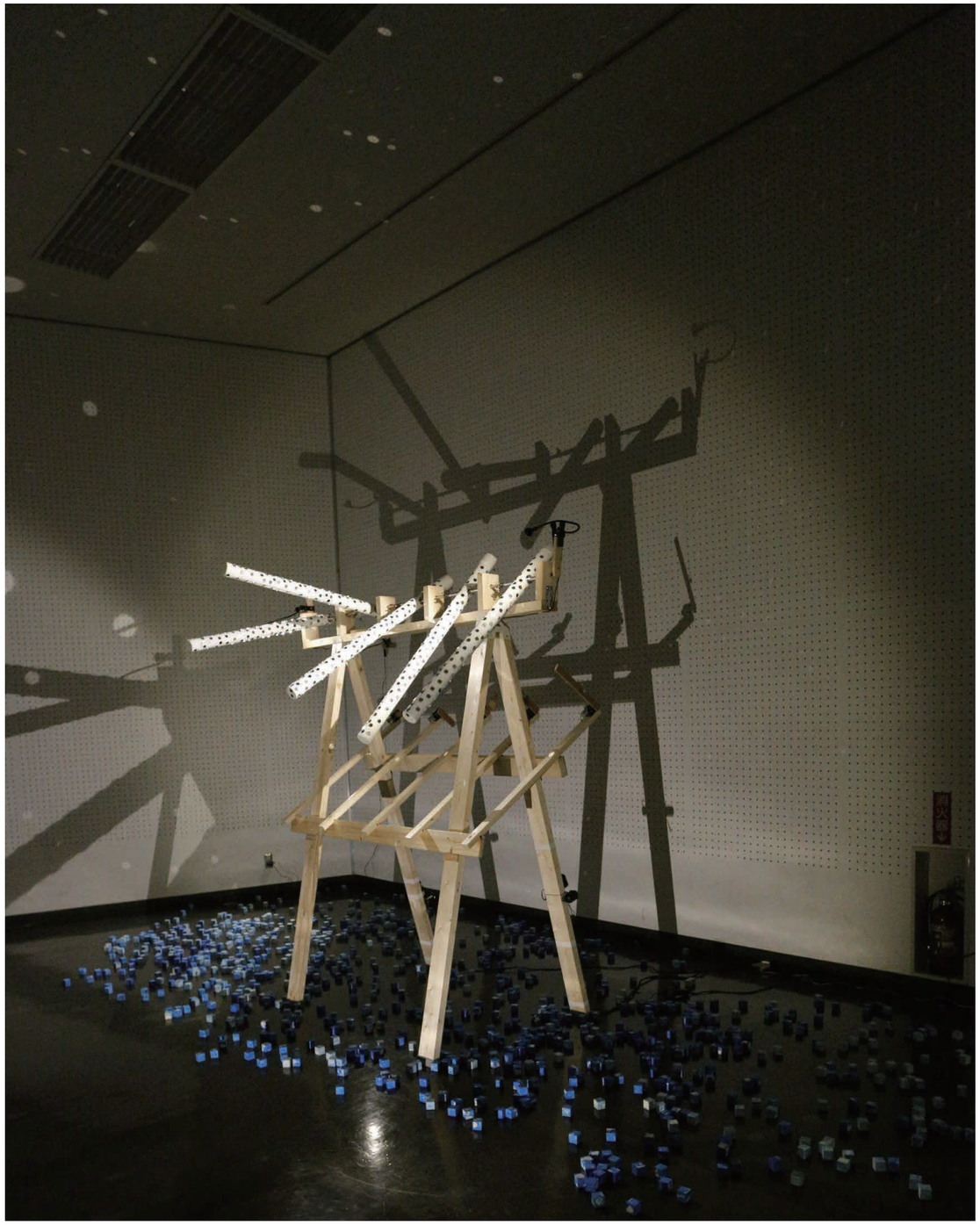
大原 由　①②③④⑦⑧　映像（光）
葭谷 昭　①②③④⑦⑧　映像（光）
多田 満　①　「環境カフェ」Zoom 会議

⑧

⑨

耕雲機（Cloud Cultivator）No.11

SYUTA（三友周太）



『耕雲機』

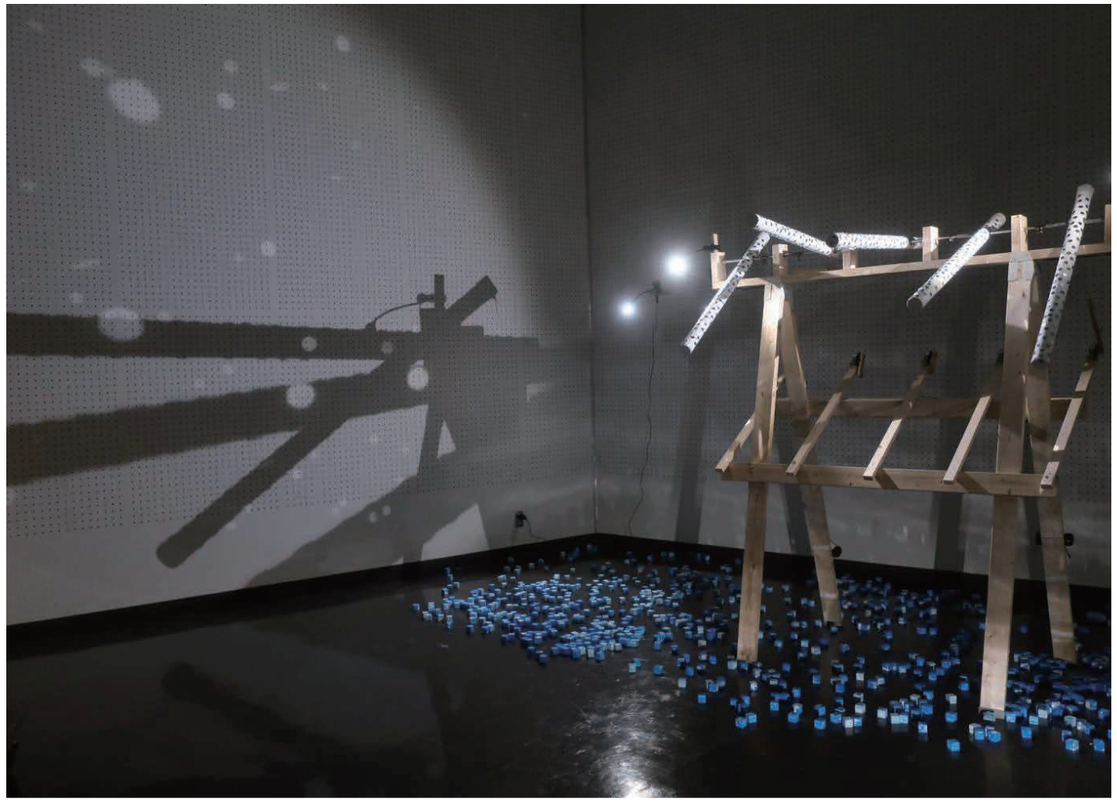
ザクッ、ザクッ、
ザクッ、ザクッ、
鈍色の刃先が土を噛む
天に振り上げた鍬が
大地に向かって弧を描く

ザクッ、ザクッ、
ザクッ、ザクッ、
フカフカの土からは
生きるものは
天に向かって真っ直ぐ伸びる

パラリ、パラリ、
パラリ、パラリ、
白金の刃先は雲を切る
青い空が広がって
光の粒は七色に散らばる

パラリ、パラリ、
パラリ、パラリ
雫は大地へ降り注ぐ
生きるものが
天に向かって真っ直ぐ伸びる

SYUTA



「くもをたがやす」ための「耕雲機」が有ったらいいなと考えた。青い空と白い雲が粉々になって散らばった様子があたまの中に浮かんだとき、パラリ、パラリと音がしたような気がした。

Artist/Pharmacist : SYUTA（三友 周太） 経歴 : Bronx NY USA 生

医薬品開発の業務に携わる傍ら、美術家としての制作活動およびアートディレクターとして、多様性や日常と非日常の交差点、学生時代に学んだライフサイエンスをテーマにした制作を行う。

What color do you care about?

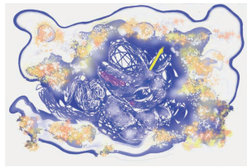
色は自分の心を映す。
好きな色、気になる色。
選んだ色で自分の気持ちがわかるのです。

What color do you care about?

知的な遊び人
＜SUZU＞

今日の私はどんな感じ？
さあ、色に聞いてみよう！
（色の意味をキャラクター化してみました！）

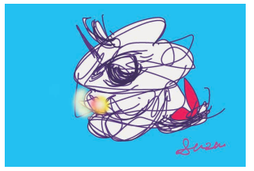
＜White（白）＞
無から有を創り出
すクリエイター



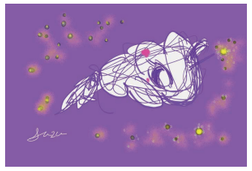
＜Yellow（黄色）＞
知的な遊び人

＜Pink（ピンク）＞
いつまでも
子供でいたい甘えん坊

＜Blue（青）＞
クールですけど
包容力ありますが何か？



＜Purple（紫）＞
深く自分に入り込む
考える人



＜Orange（オレンジ）＞
明るく楽しい
エンターテイナー

＜Green（緑）＞
ずばり癒し系！

＜Red（赤）＞
地に足がついた
チャレンジャー

アートに不可欠な＜色＞
それに注目して見ることはあまりないかもしれないけれど。
今回の展示で＜色からアートを見る＞そんな楽しみ方もあるんだね、
と言ってもらえたことが嬉しかった。

今年も
ありがとうございました！

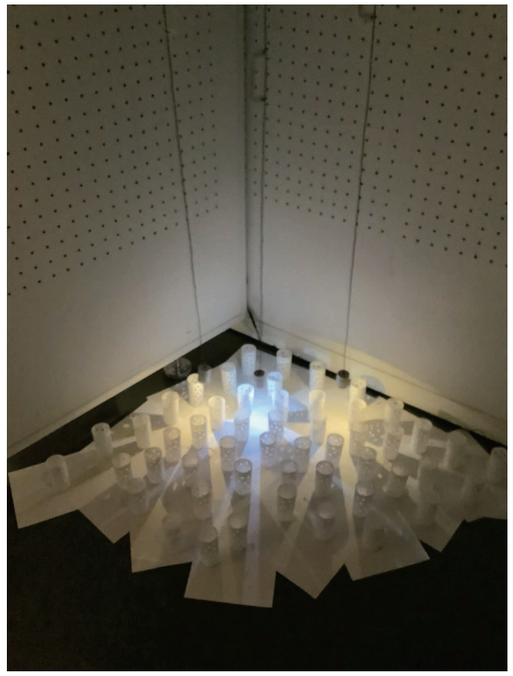
SMF アートの宝船展2022「くもをたがやす」　NO13

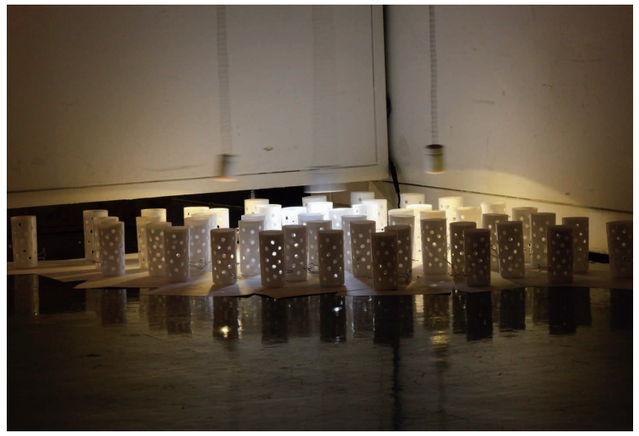
遊影装置

ライトインスタレーション

「ヒカリ」と「カゲ」の楽しみ方、遊影シリーズ

「あるもの」＝物体を「ヒカリ」で照らすと
「カゲ」が現れます。「光」から物体の距離・方向・角度により、長く・短く、厚く・薄く、伸びて・縮んで「カゲ」の表情が変わります。単純な「モノ」から現れる不思議な「カゲ」を捜し、見つける「遊影」シリーズ。
「アクリル」のカタチに穴あけ加工し、「LED」ライトを加えて空間に「カゲ」を広げる「装置」。
今回の「光と影」をぜひ、ご覧ください。「ゆるやかにフワッ」とする気分。田中清隆





Collective Projection 2022

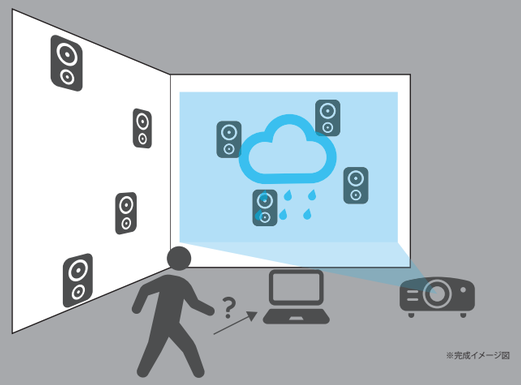
@宝船展 2022 「くもをたがやす」

2022/3/16〜20 | 10:00〜17:30 | 埼玉県立近代美術館

制作

東京電機大学
作曲・音楽文化研究室

菅原聖秀, 吉田絵梨奈, 上野知也, 遠藤慎之輔, 栗原歩武, 関口野亜, 原悠真, 真中大徳, 五十嵐万裕, 賀川友理, 川崎萌奈美, 椎橋圭悟, 中村光希, 鈴木隆潤, 橋本亮吾, 新井聡真, 本多慎吾, 土井理史, 小室佳太郎, 長谷川隼大, 安田翔, 長谷川権, 柿崎瑞貴, 鈴木怜奈, 川崎拓海, 塩田千紘, 笹嶋ひより, 鈴木敦也, 小林玄斉, 間下拓海, 髙根沢直柔, 松本実樹, 吉田優理奈, 松本恭祐, 蛯原崇弘, 柴山拓郎
（＋あなた）



※完成イメージ図

Collective Projectionとは

この作品は、8つのスピーカーから出力される多方向からのもの音と、プロジェクターから映し出される映像が、プログラミングを用いたランダムによって混ざり合いながら空間に投影される展示作品である。

この作品に用いられる一つ一つの音素材（例：空き缶の転がる音、電子的な音、人の声）や映像素材は、東京電機大学 作曲・音楽文化研究室に所属する複数の作者によって収集され、協働制作によって一つの作品となった。

この作品は、作家性の希釈を目的としている。複数の作者からなる素材たちをランダムに組み合わせていくことで、より複雑だが、不思議と一体感を感じられる空間を作り上げるようにした。また、展示物の中に設置されているPCのカメラに映った映像が、リアルタイムに映像に組み込まれ投影される瞬間が

電子音響音楽

電子音響音楽ってなに？電子音楽は聞いたことがあるけれど、電子音響音楽は分からない、何が違うの？という方は多いかもしれません。

電子音響音楽は、1948年にフランスで生まれた具体音楽（主にもの音でできている）と1951年にドイツで生まれた電子音楽（主に電子音でできている）の2つを総称して呼ばれています。

実は、作曲・音楽文化研究室が主宰している「電子音響ピープルプロジェクト（以下DOPP）」では主にこの具体音楽を一緒に作ります。

具体音楽がもの音でできているのは分かったけれど、そんな変な音楽を作って楽しいの？と思われるかもしれません。

実は2015年からDOPPとしてワークショップやライブをしてきて、これまで300名以上もの方にご参加いただき、案外好評なのです。

これまでご参加いただけているのはこういった理由からかもしれません。

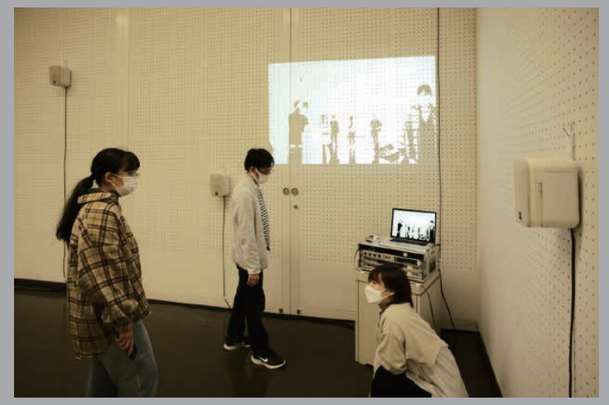
具体音楽は、普通の音楽のように、創作における決まり文句のようなルールが非常に少ないのです。一方普通の音楽では普通の音楽らしく聴こえるように作るために沢山ルールを覚えなきゃいけません。しかし具体音楽にはそれが少なく、初めてでも気楽に作れるのです。もしかしたら、こういう自由な面が参加者にご好評いただいているのかもしれません。

さらにそれが、参加者にとって、普通の音楽じゃないのに「面白い」「楽しい」と感じられているのなら、この活動は参加者の好みの幅を拡げたという意味で大きな貢献ができていると言えるのかもしれません。

今後、このような変な音楽を作る活動に、どんな意義があるのか（もしくはないのか）詳細に確かめていきたいと思います。

作曲・音楽文化研究室　新井

ある。つまり鑑賞者自身が展示の中に映し出される。このように鑑賞者が偶然的に関与することで、作品の体験そのものが変容していく。この変容は、作品の創作者と鑑賞者という立場を繋ぎ合わせ、分断されてしまったかにみえる関係性を緩やかに解体する。作曲・音楽文化研究室は「電子音響ピープルプロジェクト」の活動の中で、それまで鑑賞者の立場をとっていた人々に、自らの手で創作をする楽しさを提案する活動を行なっている。



電子音響ピープルプロジェクト

このプロジェクトは、音楽創作における専門的な知識をもたない方々に対して、もの音を素材とした電子音響音楽の創作を体験してもらうプロジェクトである。このプロジェクトは2009年から実施されてきたワークショップを前身として2015年に立ち上げられ、これまで大学、美術館、ライブハウス等で、創作ワークショップやスペシャルライブを実施してきた。

電子音響音楽は、現代音楽の一つとされており、多くの人々にとっては楽しんだり、理解するのが難しいとされているが、私たちは数多くのワークショップの経験から、このような音楽は誰にでも楽しめる音楽なんだ、という確信を持っている。この活動の特色は、プロとされるアーティストと初めて創作をする参加者が一緒になって協働制作を実施するという点にあり、これは芸術創作における作家の特権性へ疑問を投げかける試みである。

・電子音響ピープルプロジェクトHP : http://d-o-people.net
・電子音響ピープルプロジェクトFacebook : https://www.facebook.com/denshionkyopeople/

写真　中村元の世界

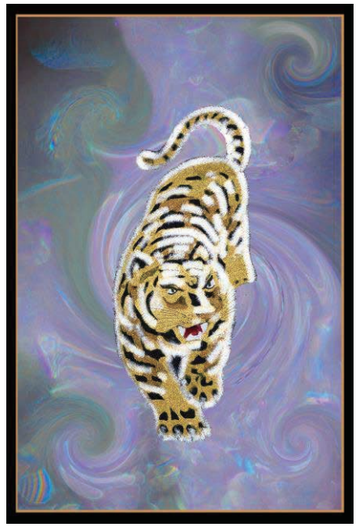
展示風景

NO 5 楽しく飛ぶかたち

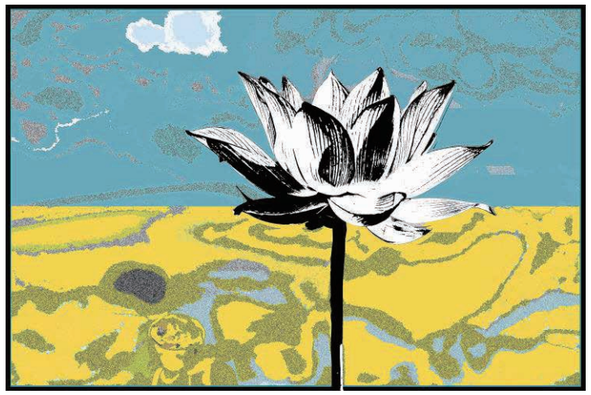
NO6 淵・秋

写真　中村元の世界

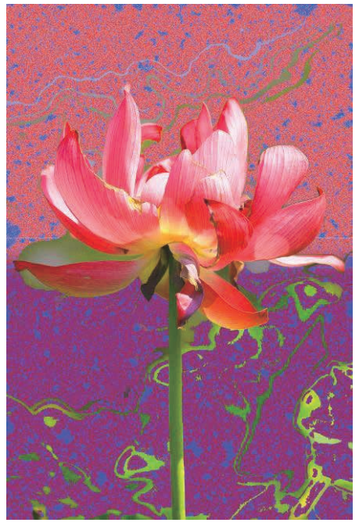
新型コロナ騒ぎが続く中、
世の中明るく照らすものを見据えるこが難しい昨今
戦前生まれの私にとって、まるで時間が止まってしまったような感覚です。
2022 宝船展は、時間が大変早く過ぎていきました。
型友禅の職人だった私は 1 枚の写真を 1 枚の型紙と見立て画像を重ねて作る多重露光写真を好んで学んだのだことがきっかけでした。そして PC との出会い。
PC を使うことで、私の世界はゆっくりした歩みで、ひろがっていったのです。
2022 宝船展出品作品は、新しい私の世界観への出会いでもあったとうれしい気持ちになります。



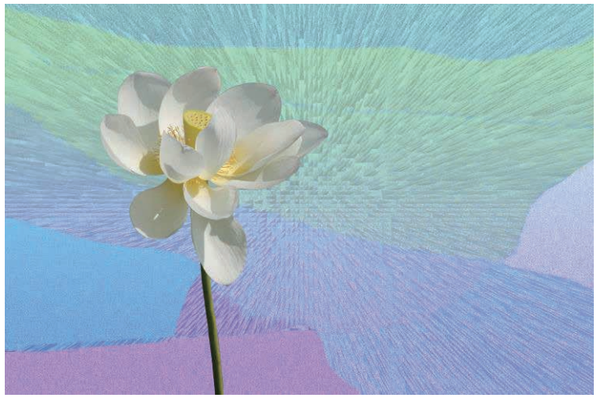
NO 1 干支五黄のトラ



NO2　祈るウクライナに平和を



NO 3　炎華



NO4　六月の風

羽が欲しく手

solid@plane

たとえば寝る前の布団の上下裏表が、裏側だったり、上下が逆だったりして、そのまま眠りについてしまうと、もしかして別の世界(異次元)に行ってしまい、二度と現世(此処)に戻ってこられないかもしれない・・・。そんな風に思ってしまったのだからたまらない。自分の布団を必死に整えて、眠りの体制についている、その様子を側で見ていた4歳年上の姉が、何の儀式?と、不思議がった。別世界に行ってしまうかもしれない恐怖を話したら、一笑して、バカにされた幼い頃の思い出。

欲ばりですね、「欲ばりな作品」とでも名付けたらいいじゃないですか。「絵が立体になり座れるのです」と、観客某氏に作品説明をした時に、頂いたコトバ。

家庭と創作と、どちらも手放すことなくつづけて来た。「主婦の作品など見る価値も無い」と、抽象画を描いていた頃、助手として在籍中の建築科の某先生に言われた。なるほど、と、納得しながらも「違う」と、思った。

仕上げの段階で、家人が大病に遭った。

スーパーウーマンなんかになれない。

相変わらず欲ばりだけど。

西尾 路子

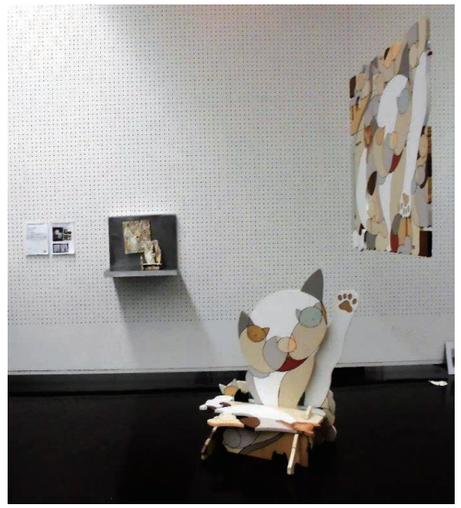
くもをたがやす

2017 宝船展Ⅱ旅:604 のたまごものがたり

さいたまトリエンナーレ2016・SMF学校/市民会館おおみや旧食堂/たまごからから/参加者メッセージ 604 個のたまごによる「Please draw your messages 2016.11.10〜12.11」インスタレーション

2018 宝船展 もの こと ゆめ の交換

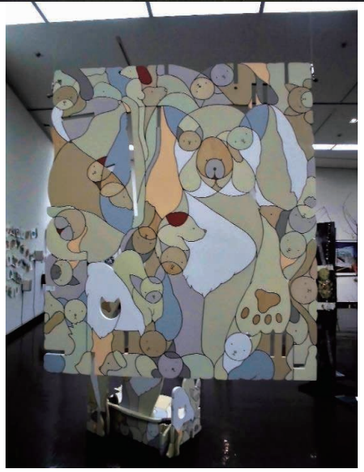
solid@plane://描・猫/2017



2019宝船展オープンスタジオ創造の海へ

solid@plane://大・犬/2018　　花物語三話

2021 宝船展くもをつかむ:ブッダになるために



2022 宝船展くもをたがやす

実物作品/不参加

solid@plane://人・入/2021

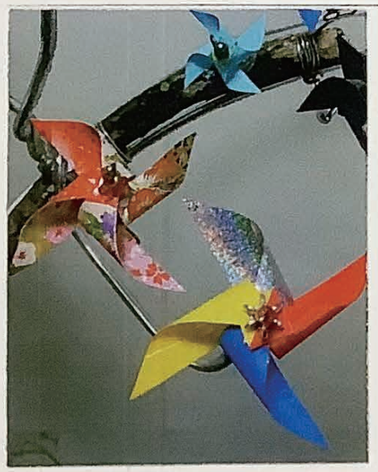
花咲かアートさん-2　　出品番号17　　根岸和弘

雲行雨施とは

雲が空に流れ動いて雨が降り、万物を潤して恩恵を施すこと。「三省堂新明辞典より」とあります。
空を見上げ雲を見る時、昔からその形や様子から色々な名を付け、思いを寄せ季節を感じ取ったり天候を予測したりします。ex羊雲・鰯雲・入道雲・鱗雲・・・。

記録的大雨で上流から流され河川敷に打ち上げられていた「桑の木の根っ子」。大雨は多大な被害を生みますが、一方では蒸発して雲となり、雨や雪となり、肥沃な土壌を作り大地を潤す大循環であります。

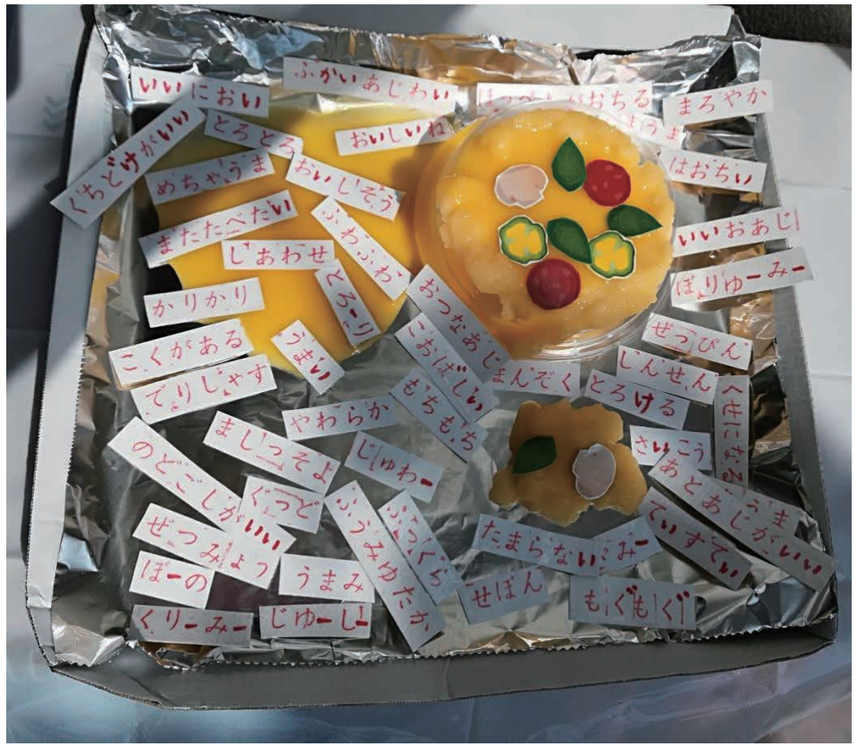
大雨で流されたこの桑の木の木としての生命を注ぎ込んで見たいとの思いから、47個の「風ぐるま」を花と見立て表現しました。



作品名:

言葉も一緒に食べているんだ。

作者名: はたみき
制作年: 2022 年
制作日数: 1 日
技法・材質: 紙・スタンプ・食品サンプル・スライム



「くもをたがやす」と出展作品の関わり

雲(目に見えない、掴めないもの)を耕し、新鮮な空気を取り込みたい。生気や活気のある食卓にしたい。食卓の雲(湯気、冷めないうちに食べる、空気)を大事にしたい気持ちを視覚化した。

黙食なんて、ホントの食事じゃない。会話のない食事なんて。味がなくなったガムと同じ。味気ない。食べた気がしない。会話もご馳走。お腹を満たすだけが、食事じゃない。心もお腹いっぱいにしたい。楽しい食事を諦めない。まだ、諦めたくない。一緒に、笑おう…一緒に味わおう…一緒に食べよう…僕らは、言葉も一緒に食べているんだ。

(美味しくない時だけ、「コレ、好きじゃない」と反応。おかわりを要求するだけじゃなくて、美味しい時くらい、「おいしい」って言葉にして言ってほしい。コロナに関係なく思春期の息子との食事は、いつも黙食。私の存在は無視で、悲しいくらいスマホに夢中です)

作品名:

「の」が休んでいます。

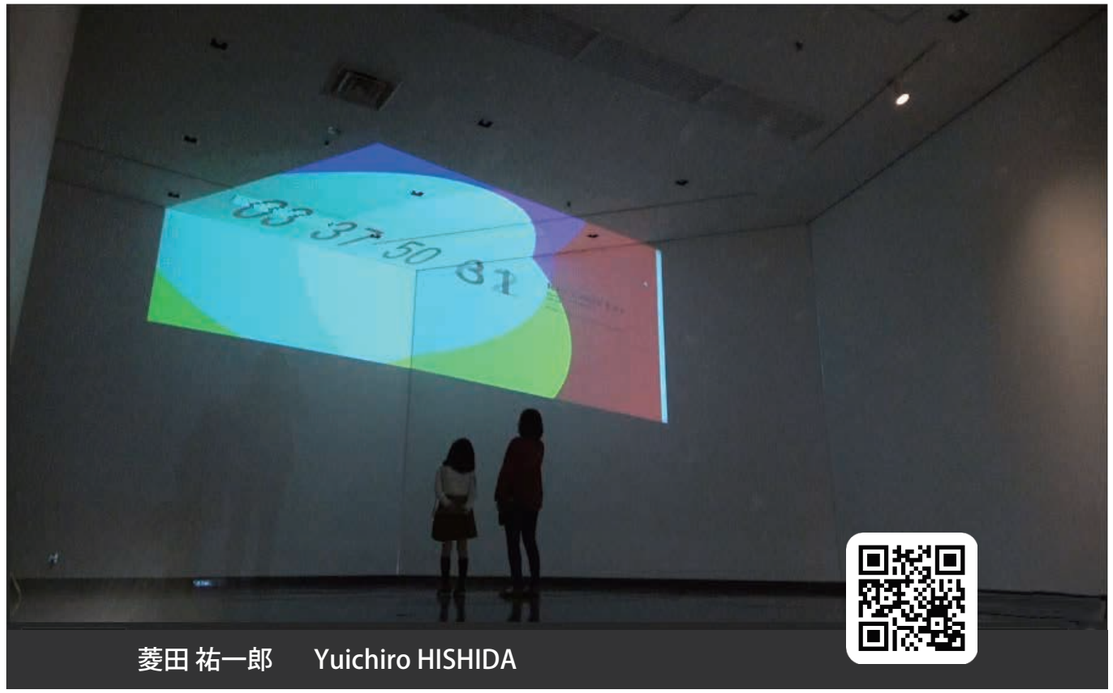
作者名: はたみき
制作年: 2022 年
制作日数: 1 日
技法・材質: モール・シール・クッキー型・ポット受け皿・粘土・消臭ビーズ・梱包材

「くもをたがやす」と出展作品の関わり

雲(目に見えない、掴めないもの)を耕し、新鮮な空気を取り込みたい。心を豊かにすることにももっと目を向けてみませんか? 格助詞「の」が、よく働いてくれていることに着目しました。格助詞「の」が文中で果たす意味。言葉を繋げていく力を感じてみました。普段意識していない助詞「の」の存在をゆっくり、大切にしてあげたい。そんな気分です。働き者の格助詞「の」。
「の」だって休みたい。誰かの、何かの、私の…。休んでいる「の」の世界です。

「の」:主な格助詞(主に名詞のうしろに付く助詞)のひとつ

① 部分の主語	兄の撮った写真	旅行の好きなひと
② 連体修飾語(名詞を修飾するもの。文節)	猫のヒゲ	ヨガサークルの友達
③ 並立(二つ以上のものが並んでいること)の関係	修学旅行に行くの?行かないの?	
④ 体言(名詞)の代用	そのマンガ、ボクの。	上履きを新しいのに変えた。



RECORD T41

時を可視化した現代アート作品シリーズで、時間をテーマにした WEB ART 作品です。
WEB ART とはインターネット上にあるアート作品ですが、会場がある場合の展覧会は
プロジェクターを使って演出しています。

YouTube

公式サイト
https://waerbt.com/

RECORD_T47
[2021制作]

RECORD_T43
[2020制作]

RECORD_T42
[2020制作]

RECORD_T41
[2020制作]

RECORD_T40
[2019制作]

RECORD_R15
[2017制作]

RECORD_R02_Tour
[2017制作]

RECORD_R14（非公開）
[2016制作]

「空とくもとそこから感じるもの」

平本　仁一

空を見上げる。くもをみる。
そして何を思い感じるか。
広がる空に想いをよせる。
そんな写真を集めてみました。

空とくもからあなたは何を感じますか。
それが僕と同じ必要はない。

空の写真を20枚出展させていただきました。
撮影地はすべて狭山丘陵です。地元で撮りためた写真の中から特にくもが印象的な写真を選んでみました。

同じ空を見ても、
見る人によってとらえ方や印象が異なるって面白い。

今回の展示を見てくださった方がいろいろな感じ方をしてくださったら嬉しいです。

撮影地：埼玉県所沢市
・狭山湖（山口貯水池）
・雑魚入樹林地他

負の心持も
耕作すれば ダンスの始まり

振付／藤井 香

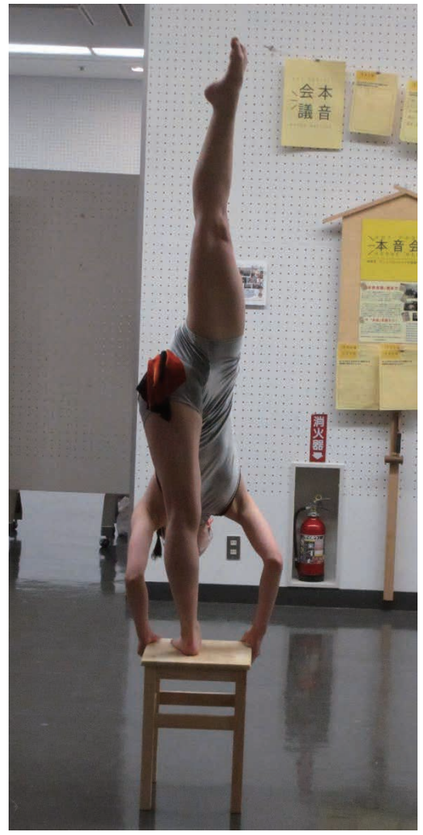
晴れ晴れとしない、負の感情をモチーフとした３作品を上演。曇り空のような心持を耕して、新たな側面の発見と再構築を試みました。

©Shunya.Asami

©Shunya.Asami

「人間をやめるとすれば冬の鵙（もず）」

俳句／加藤楸邨　出演／藤井彩加



Ｍ．ＨＯＮＤＡ　車のある風景

Mの水彩画
M.HONDA
ブログ

宝船展においては、大中小サイズの違う絵を、壁に集約して展示させて頂きました。車のある風景は水彩画を始めた2000年当初から描いてきたテーマです。仕事で海外に出張する事もあり、その先々で撮った写真を元に描いた絵もあります。国内では地元の浦和や好きな銀座など、自分の中でピンと来た風景を描いています。個展は2007年より定期的に開催し、定年退職した2018年からは年２回のペースで開催しています。

宝船展に展示した絵と個展に出品した、これまでの絵の一部を紹介させて頂きます。ブログで絵に付けているコメントもお読み頂ければ幸いです。

オリジナルミニ　2021年

BMがミニブランドを買い取ってから、最初はオリジナルを今風にデザインして上市しましたが、モデルチェンジを繰り返しながら、派生と肥大化が進行しています。そんな中でオリジナルミニを見掛けると心が洗われる思いです。

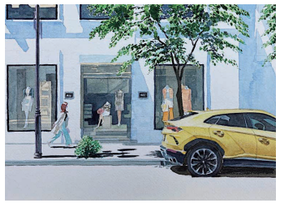
※この絵は浦和での日課の朝のウォーキング中に通り掛かった閑静な住宅街の中の風景です。立派なガレージの前に停まっていますが、ガレージの中にはもう一台入っているかも。

夏の神社　2021年

この神社もウォーキングコースに入っていて時々行くのですが夏の盛りは蝉の鳴き声が盛大です。正に岩に染み入るほどです

※この絵も浦和界隈です。うさぎを祀っている事で有名な調神社です。何門というのか正門で無い門の内側から見た風景です。

並木通りのSUV　2021年



世界中のSUVブームに、このメーカーも造ってしまった。10年前の中国のモーターショーに展示されていたが、時を経てこの銀座並木通りに停まっているとは。思い返せば、40年以上前に、チーターと言う名前の4WDを提案していたので、以外では無いのですね。

※この絵は大好きでよく行く銀座の通りです。銀座は洒落たブランドショップが多く立ち並び非日常的な車に遭遇する事が出来ます。

並木通りのアバルト　2020年

赤いショーウインドーをバックに佇む暗めのボディー色の車、ネロスコルピオーネと言う色名らしい。イタリ語で黒サソリ。可愛いお尻なのに怖い名前です。

※並木通りの絵はほとんどそのお店の前に停まっていた車をそのまま絵にしています。人は別の写真から持ってきたりしています。ここにいるカップルは横浜の赤煉瓦倉庫前から来て頂いています。

黄色い車　2016年

これまで赤、紺、白、シルバーと車を乗り継いで来ました。今はまた紺に落ち着いていますが、こんな綺麗なイエローがコンパクトな車であったら乗ってみたいと思います。

※この絵も並木通りだったか。ビルの上階に用がありエレベーターを降りて窓際から下を見たらこの車が。

南国の朝　2009年

太陽の光が山で遮られていてここ一帯の車達はまだ青い影で覆われています。その青い静寂の中で波の音だけが聴こえています。

※仕事ではなくプライベートで行ったハワイです。ワイキキのビーチから少し歩いたところ。異国の車とバックのパームツリーが新鮮でした。

猛暑 2013夏　2013年

2013年の夏も最後の悪足掻きの季節となりました。猛暑も過ぎ去ってしまえば何故か愛おしいもの、あんなに早く過ぎてくれないかな、と思っていたのに。車にも辛い夏だったのではないでしょうか。こんな風にヒンヤリとした車庫で休んでいられる車は幸せですね

※南青山の閑静な住宅地だったか。エキパイ４本出しのハイパフォーマンスカーが駐車しています。女性は銀座からお越しいただきました。実は女性が歩く方向には青山墓地があるんです。

ミッレミリア　2008年

ドイツに駐在した同僚がレースの写真を送って来てくれました。これはイタリアのレースですが雨のスタートは珍しいのではないでしょうか。古い車は小さくていいですね。

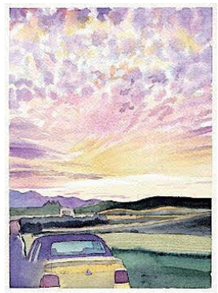
※雨で路面に滲み反射するヘッドライトの光や影が面白いです。この絵を買ってくれた方は、その後亡くなってしまったのですが、主人を亡くした絵はどうなってしまうのか、考えてしまいました。車の機種はジャガーCタイプ

街角　2007年

最近はこの車の様にハードトップでオープンになる車が増えてきました。走っても静かだし安全性も高いのですが、幌仕様でもボディの色にコーディネイトしたルーフ色のオシャレな車はまだまだ魅力的です

※仕事で行ったデュッセルドルフ。雰囲気のある大人のカップルが歩いていました。

夕焼け空　2006年



自然は人間の想像を絶する程の芸術家で時折面食らいます。この空もいつかの夕焼け空です。以前は美しい風景だけを描いていましたが、人や車を入れる事によって見る人それぞれのストーリーが生まれてくればいいな。と思います。

※2007年の初個展に出した絵です。夕焼け空が上手く描けて自分なりにとても気に入っていたのですが売れてしまいました。販売しているので売れる事は良い事なのですが、娘を嫁に出す様な心境になりました。

このまま春に、、、2006年

先日の大雪の記憶も消え行く残雪と同じ速さ去ってゆきます。暦の上では今週末は立春、季節はこのまま春になってくれるのでしょうか。散歩で見かけた素敵な光景です。ドイツ車は雪もお似合い。

※浦和区岸町辺り

奥日光 湯の湖畔　2005年

※浦和は東北道とのアクセスに便利で、日光はよく行く場所です。
この時はこの場に絵になる車が停まっていてくれました。

つのをむく

みやうか

まだ雲を掴んでもないのに
耕すことになりました。
でも、畑は鍬で耕すけど
雲は何で耕すのだろう。
途方に暮れていると
頭に角が生えてきました。
雲を掴まえたら
この角で耕してみようかな…

【素材】
頭部：和紙
ひげ：白く着色した化繊製のほうきの穂先

「つのをむく」は、居場所を追われた野生動物たちの戸惑いやそれに伴って湧いてくる攻撃的な感情を角によって表現した作品です。

宝船展のテーマを聞いて違和感を覚えたときの感情がこの作品と通じていたため今回出品することにしました。台座となる市販のマネキンヘッドはもともと加工していませんでしたが、出品するにあたり私を意味する“ねこのひげ”を急遽取り付けました。

角の中に LED ライトが入っているので光らせることが可能。もちろん被ることもできます。

《旅に誘う虫たち》

No.25 矢花 俊樹

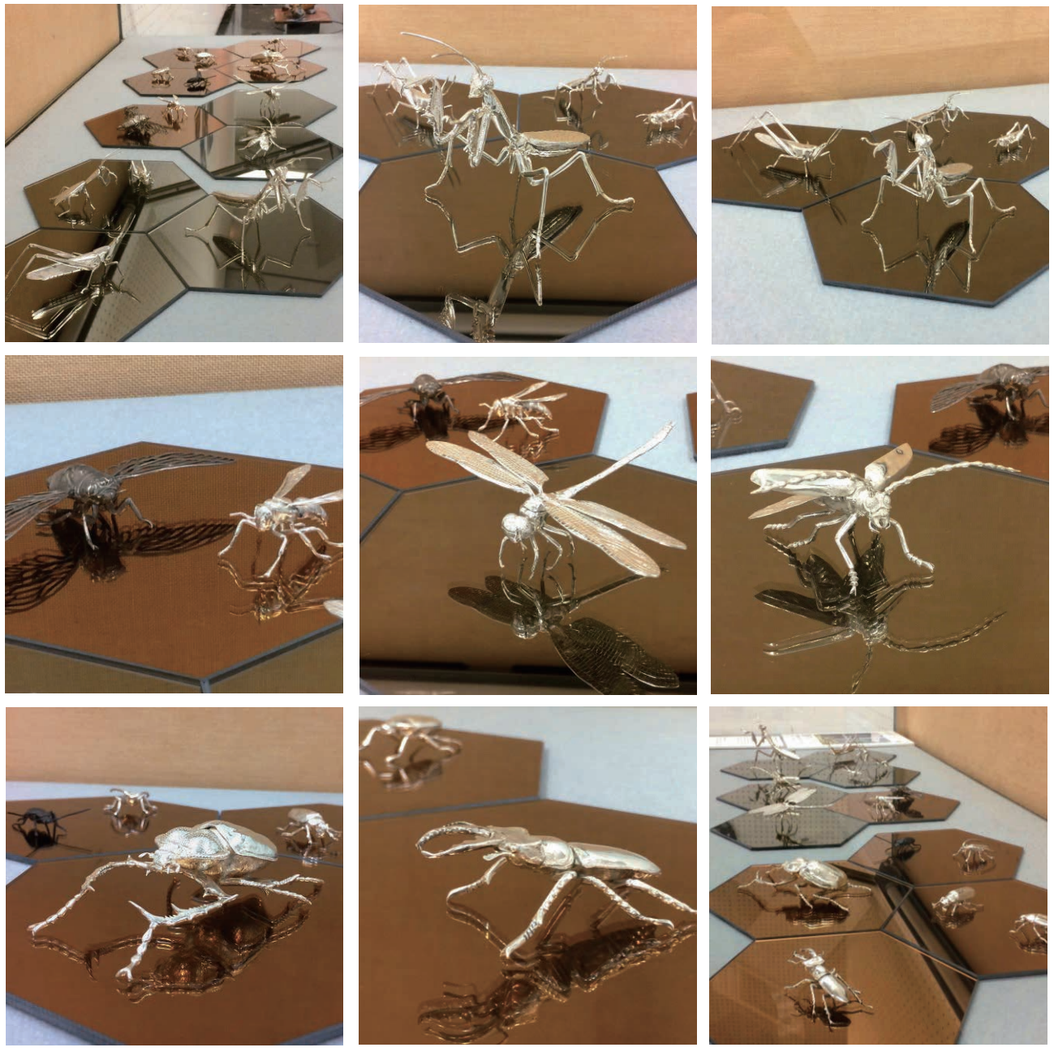
《オオカマキリ 2021》size：生体昆虫と同じ
制作日数：12 日（50 時間）
技法：彫金　素材：silver950

「くもをたがやす」と出展作品の関わり

重村三雄氏の作品に関連したワークショップ**《風景の外側に集う虫たち》**を企画した。本作品は技法こそ異なるが、昆虫を金属に置き換えたかのように表現することで、現実感を喪失させながらも、鑑賞者が虫との出会いの記憶を呼び覚まし、時空を超えた旅へと誘う作品である。ワークショップで参加者が制作する時にも、虫との出会いの記憶を呼び覚ましてほしい。

作品制作にまつわるエピソード

70 歳を過ぎたご婦人がハラビロカマキリをいたく気に入ってくれた。子どもの頃、カマキリを持って男の子を追い回していたそうだ。そのご婦人の為に新たにオオカマキリを制作した。



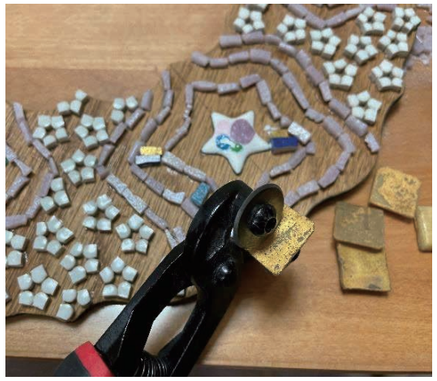
展示作品

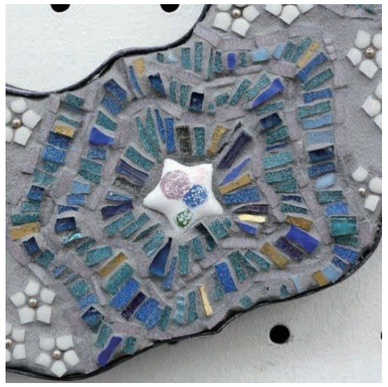
1．カナブン　2010
2．ゴマダラカミキリ　2010
3．オニヤンマ　2011
4．オオスズメバチ　2012
5．ショウリョウバッタ　2014
6．イナゴ　2014
7．ハラビロカマキリ　2015
8．ヒゲコガネ　2016
9．ルリオサムシ　2017
10．ミヤマクワガタ　2019　11．オオカマキリ　2021　12．クマゼミ　2021
13．クワカミキリ　2021　14．ヤンバルテナガコガネ　2021

タイルモザイクアートは、クラフトタイル・ガラスタイル・モザイクタイル、石や様々な素材を専用の工具を使用し小さくカットしながら絵や図案の上にそれらの素材をモザイク状に配し目地材やセメントで隙間を詰め作品を仕上げます。

タイルモザイク作品「星はいつも静かにささやいている」を制作しました。「星」は七宝で制作し、星の波動や小さな星はタイルをカットしモザイク技法で表現しました。使用した素材は、ガラスタイル、七宝、ビーズ、磁器タイルです。タイルの厚みが違って凹凸が表面にあるのが立体感を出せたらと、目地の隙間の間隔を変えることで散らばっている様子を表せたらと工夫しました。空に漂う「雲」と夜空に瞬く「星」が私達の営みとどこか心情や人生の岐路にふっとつながる瞬間がある。今回のテーマである「雲をたがやす」ということが、コロナ禍の生活の中で優しく投げかけられた問いのようであり、私自身も制作をする上で背中を押してくれた言葉になりました。

『星はいつも静かにささやいている』　山口素子





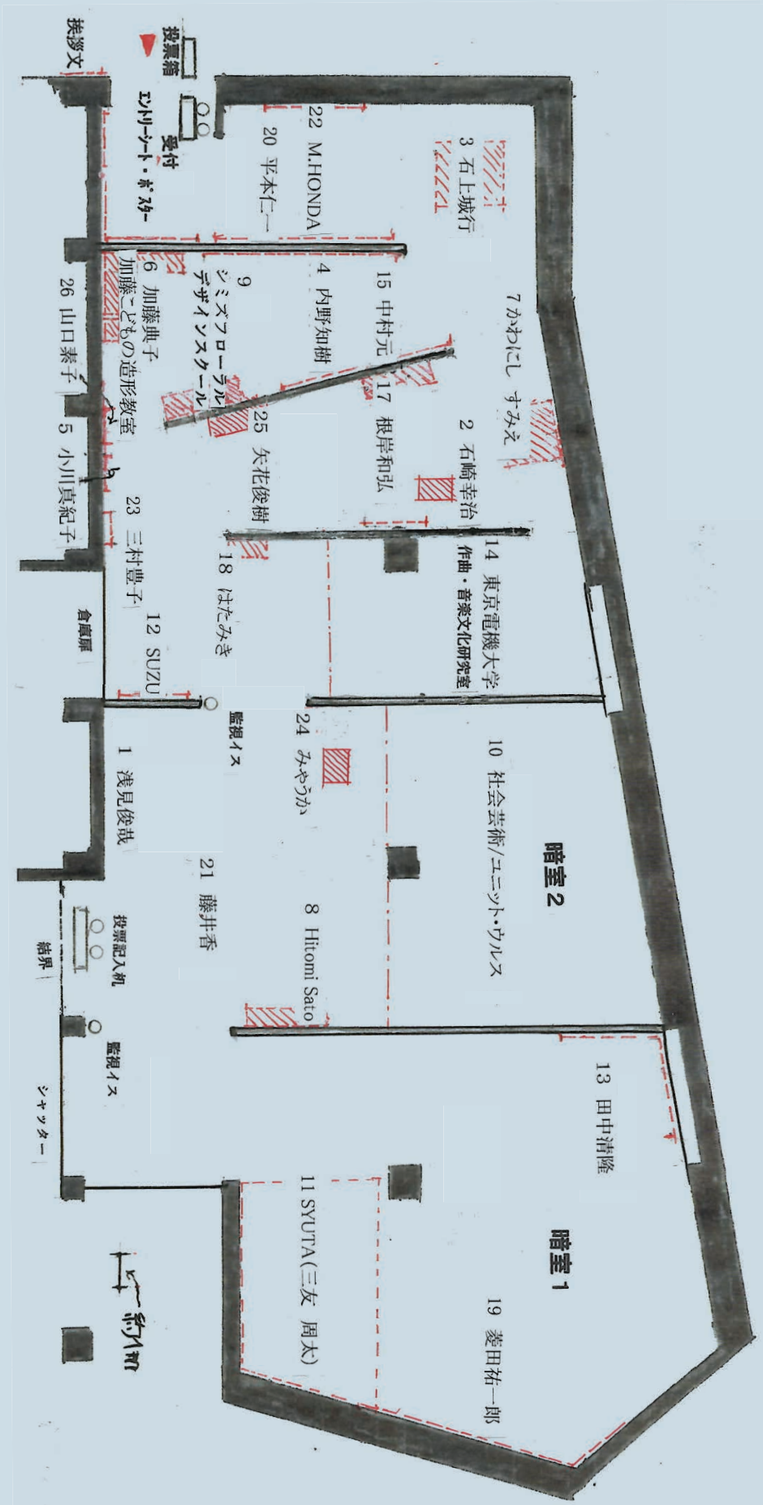
「雲をたがやす」とタイルモザイクアートについて考え、タイルを切り張っていく、コツコツ続けていく作業が雲を耕すと共通するのではないかと思いました。月の兎のそばに雲を出現させました。うさぎの可愛さを広めるため、うさぎモチーフのタイルモザイクアート作品を作っています。うさぎと月はクラフトタイル、背景はガラスタイル、うさぎの目は天然石のオニキスを使用しています。

『月と兎』　小川真紀子

「樹氷原の中で」を制作しました。冷たい空気を感じながら、明るい薄雲に覆われた青空の中、**蔵王の樹氷原を**気持ちよく滑った時の写真をもとにして作りました。自然は、私たちに豊かな心の動きを与えてくれます。「くもをたがやす」は、わたしにとって、「思いを膨らませること」です。この作は、**「スノーモンスター」を**様々なタイルのカットの仕方や色使いを工夫しながら表現してみました。作品を制作する中で、自然の偉大さや豊かさに、さらに思いを深めることができました。今回、見ていただいた方が、穏やかな表情をされていたことが心に残りました。これからも、穏やかな明るい心になれるような作品作りをしたいと考えています。

『樹氷原の中で』　三村豊子

SMFアートの宝船展 2022 会場レイアウト



SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」トーク&ラウンドテーブル

宝船展2022会期の終盤、3月19日と20日に宝船展2022年のトーク&ラウンドテーブルが行われました。このトーク&ラウンドテーブルは、この宝船展で展示されている作品や会場で披露されるパフォーマンスと同じように重要なイベントと位置づけられており、そこにはSMFがゆるやかに構築しているプラットフォームの姿が立ち現れています。

今回のトーク&ラウンドテーブルは、2年ぶりに対面による会場での実施となりました。その間、SMFでは、コロナ禍の渦中で、オンラインによる定例のフォーラム、寺子屋、井戸端かいぎ、実展示と映像公開を併行開催し、ウェブ上のコンテンツをアーカイブ化する試み等、試行錯誤が繰り返されていました。そうした状況を経て、ようやく出品者・参加者が一堂に会してトークの座に着くことができました。

初日は、平本仁一、石上城行、中村元、根岸和弘、suzu、東京電機大学「作曲・音楽文化研究室」、みゃうか、社会芸術／ユニットウルス、藤井香、浅見俊哉、SYUTA、菱田祐一郎の各氏が、二日目は、M.HONDA、内野知樹、シミズフローラルデザインスクール、加藤典子＋加藤こどもの造形教室、山口素子、小川真紀子、三村豊子、かわにしすみえ、石崎幸治、矢花俊樹、はたみき、田中清隆の各氏がそれぞれの作品を前に、来場者に創作上の意図や思考について紹介し、最後に一堂に輪を作り、トークを行いました。

創作に関するトークで印象的だったことは、それぞれの作家が、それぞれの視点で、人を取り巻く広汎な意味としての「環境」に対して眼差しを向けていたことです。その眼差しは、ときに個々人を取り巻く外的環境、例えば海や川、大地、空、木々などの自然に向けられ、他方では、個人と社会との関係性の可視化を試みたり、色彩や視覚、時間や空間についての知覚、そこから得られる認識にといった内的環境に向けられていました。いずれも、個々人とその個々人が埋め込まれている「場」についての思いが多くの作家の通底する思いとして、今回のトークから浮かび上がってきました。アートプラットフォームとしてのSMFの活動は、形として表象しない動きそのものといえます。そうした動きはハッキリと捉えることが困難だったり見えづらいものです。しかし今回浮かび上がってきたトークからは、たとえばある作家の原点が、他の作家の現在地点や目的地点であったり、アートプラットフォームとしてのSMFの「かたち」あるいは「すがた」をなんとなしに意識させられるような体験がもたらされました。

両日の語らいでは、創作するときのぎっしりとつまった思いや積み重ねた創作哲学を共有したいという思いが伝わってきました。それらの共有したい事柄は、本来、言語化しえないような大量の情報です。それらは、伝達されるために言葉に変換されますがその瞬間に本来の情報量はぐっとそぎ落とされてしまいます。創作された「作品」はそうした捨てられる前の情報を含んだものとして存在しているはずですが、現代の創作では、その創作とそれにともなう言説と共に理解されることが前提となっているのも事実です。また、現代は、絵画が実際に目で見ることができないものを描きはじめたことによって始まりました。しかし、不可視なモノを対象とした一方「描く」という行為そのものは従来の枠組みの中にあったともいえます。その「描く」ことの解体と転換は、以降現在に至るまで様々な方法で試行されてきていますが、「関係性の美学」を柱とする「参加型アート」がその先にある表現と鑑賞とを不可分にする動きであるといえます。

埼玉県立近代美術館とSMFとが共催し、美術館地下の一般展示室というフレームにはめ込んだ「展示」は、SMFの活動のごくわずかな側面に過ぎないことは明らかなのですが、展示を鑑賞することだけではなく、その展示とトーク&ラウンドテーブルを一体のものとして取り組むことは、SMFの活動の特徴ともいえる「つかみどころのないもやもやしたものとしての全体性」を捉えるための一つの装置として機能していることを改めて感じさせられました。そうしたもやもやとしたものは、ある意味「くも」のようなものであり、それをつかみ、たがやすことが、前回と今回の宝船展のコンセプトであり目的です。そして、コンセプトはSMFの多岐に亘る活動の多様性や、そこに集う人々が日々淡々と向き合っている無数の日常と重なり合うものだと実感しました。

柴山拓郎(SMF総務委員長・トーク&ラウンドテーブル司会)

Entry Sheet

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」エントリーシートについて

SMF宝船展「エントリーシート」とは、実現したい「作品」や「プロジェクト」のアイディアなど多様なアートの夢を記載するシートです。これまで宝船展ではシートに示されたアートの夢と、展示された「実作品」や「パフォーマンス」等との邂逅から、興味深い企画が立ち上がり多くのプロジェクトを実現してきました。

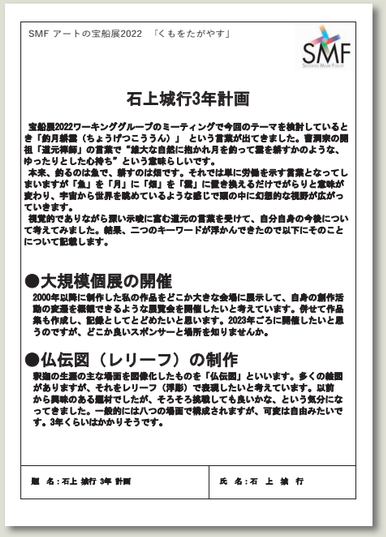
ことは、初夢で見ると縁起の良いとされる物を列挙した言葉「一富士、二鷹、三茄子」にちなんで開催した「SMFさんなすび展（2013年開催）」に端を発しています。さんなすび展では、作品の「マケット」や「プロジェクト」のアイディア、「実作品」「パフォーマンス」等を「夢のシート」に記載してもらって会場に展示し、順番にコンセプトを語る「トーク&ラウンドテーブル」を実施しました。オリジナリティに富んだ夢を一堂に会したことで想像を超えるケミストリー（化学変化）が起こり、SMFを支える多様な企画を創出しています。

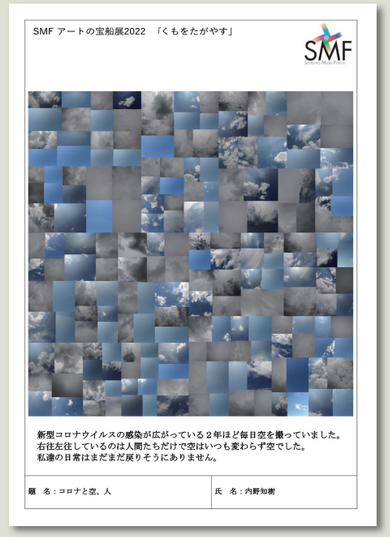
その後「夢のシート」は、紆余曲折を経て現在のかたち「エントリーシート」として定着していますが、アートの夢を希求する心は「宝船展」という展覧会名からも受け継がれています。つまり「エントリーシート」を基盤として展示を構成する「宝船展」は、実現したいと思うアートの夢を通じて自由に語り表現するアンデパンダン形式の展覧会なのです。

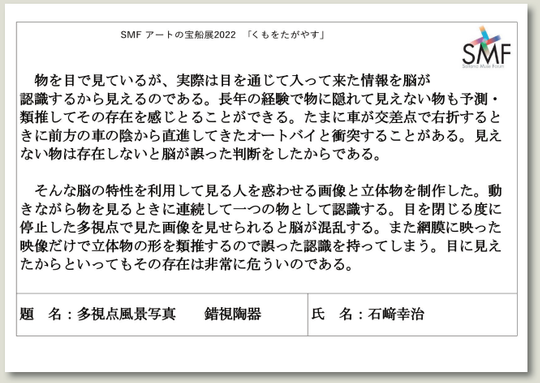
ご観覧いただく際は、展示された「実作品」と「エントリーシート」の関係にも注目しながら回遊していただければ幸いです。今回も衆目の想像を超える新たなケミストリーが起こることを期待しています。

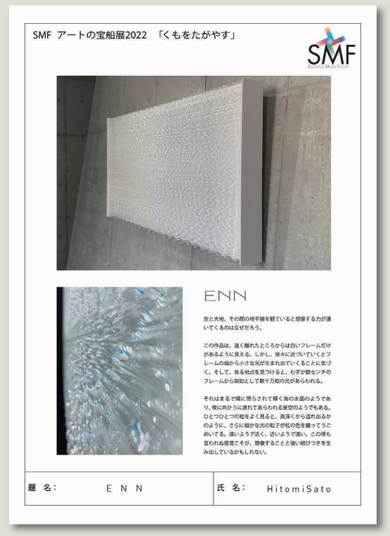
題 名： 第８回：本音会議　　氏 名：本音会議チーム（浅見俊哉・渡辺範久）

題 名： アートコロニイトークン　　氏 名： 浅見俊哉









SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

題　名：生生流転	氏　名：シミズフローラルデザインスクール

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

ライトインスタレーション
「ヒカリ」と「カゲ」の楽しみ方、遊影シリーズ
「あるもの」＝物体を「ヒカリ」で照らすと「カゲ」が現れます。「光」から物体の距離・方向・角度により、長く短く、厚く・薄く、伸びて・縮んで「カゲ」の表情が変わります。基礎な「モノ」から現れる不思議な「カゲ」を探し、見つける「遊影」シリーズ。

「アクリル」のカタチに穴あけ加工し、「LED」ライトを加えて空間に「カゲ」を広げる「装置」。
今回の「光と影」をぜひ、ご覧ください。「ゆるやかにフワッ」とする気分。

題　名：遊影装置	氏　名：田中清隆

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

この作品は、モノとしてここに在るのではなく、この作品を観たり聞いたりする皆さんの体験そのものを作品化することを目指しています。皆さんにこの作品に能動的・積極的に関与していただくことを通じ、この作品は変容していきます。その変容は、音楽とは何なのか？アートとは何なのか？という固定観念のゆるやかな解体を意味します。またこの作品には多くの作者が居て、さらにこの作品を体験して下さる皆さんも作品の作者の側に含まれています。この作品の作者は誰なのか？ということも、緩やかに解体することを試みます。

現時点での作者：菅原聖秀, 吉田絵梨奈, 上野知也, 遠藤慎之輔, 栗原歩武, 関口野亜, 原悠真, 真中大徳, 五十嵐万裕, 賀川友理, 川崎萌奈美, 権橋圭悟, 中村光希, 鈴木隆潤, 橋本亮吾, 新井聡真, 本多慎吾, 土井理史, 小室佳太郎, 長谷川華大, 安田 翔, 長谷川権, 柿崎瑞貴, 鈴木怜奈, 川崎拓海, 塩田千紘, 笹嶋ひより, 鈴木敦也, 小林玄青, 関下拓海, 髙根沢直柔, 松本実樹, 吉田優理奈, 松本恭介, 鰹原崇弘, 柴山拓郎

題　名：　Collective Projection 2022	氏　名：東京電機大学, 作曲・音楽文化研究室

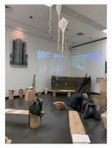
SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

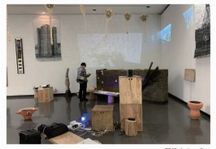
野良の藝術 2021：evolve

さぎ山の現場「鎮魂と再起」

令和３年１１月１２日（金）～１１月１４日（日）にさいたま市緑区で行われた野外作品展や炭焼と農のワークショップ、世界小屋会議、パフォーマンスの活動報告展
宝船展2022 特別企画イベント

明るい空間
・実物展示（榊井氏の和紙による舟や着物の作品 吉田氏のラウンドテーブル 他）
・壁面部分→ユニット・ウルス紹介のパネル・冊子・ポスター等、順時追加展示
暗い空間
・記録映像による活動報告（撮影：酒谷氏、他 有志による映像提供）→プロジェクター投影
　→ 野外作品、炭焼と農のワークショップ、世界小屋会議、パフォーマンスの様子
・かつて伐採地形による雲の舞台装置（奥田氏／映像提供：大原氏）→ プロジェクター投影
特別企画イベント
・若杉人氏によるダンスパフォーマンス "見沼の芸" ー １９日と２０日の二部構成で上演
・多田満氏による環境カフェ ー １９日と２０日の二部構成でオンライン開催→ ラウンドテーブル使用





展示イメージ

題　名：野良の藝術 2021：evolve さぎ山の現場「鎮魂と再起」	氏　名：社会芸術／ユニット・ウルス

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

アトリエの庭で鳩を飼っている。飼ったヒナをみていると「羽」はまことに愛らしくて美しい。「羽」が欲しいと思った。天使の羽に
ほぼ近い筆ペンの「 」では味くんどうのような「 」が現れてしまった。身近な道具の「ろ」「る」「手」でさまざまな手を想する。時代遅れの手作業、レザーカット・3Dプリンターの現代に、もうこれで実物大の作品はおしまいにしようと思いながらも性懲りなくまだに未練を引れになっている。

昔も長くなってきた。何だよう文字は知識とくやい。昨年、以前いるひらがなを題名に記した模型作品を、6点創った。そのマ「 」と「 」を実物大に製作。さながに未だ似ているひらがな「 」に気づいた。なぜかどうも「手」だらけになってしまった。最初の作意。欲しかったのは、雄づるの「手」だったかでしょうぶ。

題　名：　羽が欲しく手	氏　名：　西尾 路子

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

What color do you care about?

色は自分の心を映す。
好きな色、気になる色。
選んだ色で自分の気持ちがわかるのです。

<White（白）>
いろんな可能性を持っているから自信を持ってる！

<Green（緑）>
調和と癒し。穏やかで満足感持ってます。

<Pink（ピンク）>
愛情豊かで包容力がある。ありのままの自分も大切。

<Yellow（黄色）>
私が主役！好奇心旺盛で自由に楽しく生きてます！

<Purple（紫）>
哲学者みたいに内面や本質を見ています。直感力や感性も高いよ。

<Oranse（オレンジ）>
楽しい人の元には人が集まる。人とのご縁も生まれるの。

<Blue（青）>
コミュニケーション力高し！常空でみんなに平等。心を大事にしてます。

<Red（赤）>
前向きで積極的。エネルギーに溢れて行動力抜群！

What color do you care about?

今日の私はどんな感じ？
さあ、色に聞いてみよう！

題　名：　What color do you care about?	氏　名：　SUZU

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

「くも」とは、そこから消えないようにしていく場所！
「たがやす」とは、力まず、継続していくこと。
私にとって、思い出深い「雲」の話がある。
あれは10歳ぐらいだったろうか。
夏の終了ぶり、雨の空に舞っていた「彩雲（さいうん）」を見たのだ。
虹色に光った雲のことを言うそうだ。そんな、彩雲は「吉兆のしるし」と言われている。
もう少し時間が経ってから「彩雲」だと知って、自分だけの宝物を見つけたような気分になり、
嬉しくなったのを覚えている。
よく考えると私の人生は「彩（いろ）」との関わり が大きい気がする。
10代で「ももの染色の世界」に弟子入りして、一人前の職人を目指し、先輩の技を盗み、身につけようと日々必死だった。多くの挫折を味わい、まるで、雲をつかむような時間だった。
あれから時も経り、きものの世界で私の立ち位置は変わったが、60年以上ずっと
きものの世界でつきあってきたこと、これは本当に、コツコツと継続してただ引き寄った場所でもある。
色彩豊かな和染めの世界を生きてこれたこと、意味のないことは一つも無く、設備したり蛇の道をぐぐり抜けてたどり着いたのだ、――今も私がいる場所に。
このことは、私が、運を自ら切り開き、紡ぎ出してきたことなのだと。そして、これからどんな彩（いろどり）になるのだろうとワクワクさえする。
きものの ご縁から。
浅草で開催される「隅田川きもの関連会」で私の個展「三社祭り写真展」を毎年開いていた。
写真に没頭する時間、自然との対話。私の人生は色彩が豊かなのだとつくづく思う。
ひたすら自然に触れ、写真を撮り、人との交流で物事を考え、新しいアイデアが湧き上がる。
私の人生から、彩は切り離せない。むしろ彩は人生を豊かにしてくれている。

コロナ禍で、今まで通りには物事がいかなかったり、楽しみにしていた自分の個展が中止になったりしても、私の写真への思いはますます強くなり、表現を追求すること、
表現に通じる「何か」発見することが楽しい！

その思いが、宝船展でその私の写真を通して、みなさんに伝わるとうれしい。

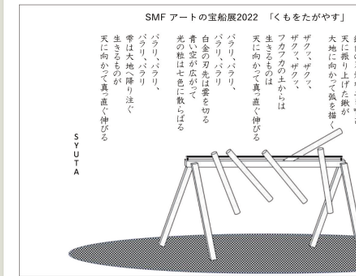
写真　中村元の世界

50 × 59 cm	50×59 cm	潮・秋 （ヒガン花と鐙の多重合成） 105×73 cm	50×59 cm	50×59 cm

小色紙×5　（トラ）アラカルト

題　名：写真　中村元の世界　　潮・秋 （ヒガン花と鐙の多重合成）	氏　名：　中村　元

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」



SYUTA

「耕雲機」

ザク、ザク、
ザク、ザク、
鈍色の刃先が土を噛む
天に翳り上げた鍬が
大地に向かって弧を描く

ザク、ザク、
ザク、ザク、
フカフカの土からは
生きるものは
天に向かって真っ直ぐ伸びる

パラリ、パラリ、
パラリ、パラリ
白い空の下に広がって
光の粒は七色に散らばる

パラリ、パラリ、
パラリ、パラリ
雫は大地へ降り注ぐ
生きるものが
天に向かって真っ直ぐ伸びる

題　名：耕雲機＝Cloud Cultivator	氏　名：SYUTA（三友 周太）

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

What color do you care about?

色は自分の心を映す。
好きな色、気になる色。
選んだ色で自分の気持ちがわかるのです。

<White（白）>
いろんな可能性を持っているから自信を持ってる！

<Green（緑）>
調和と癒し。穏やかで満足感持ってます。

<Pink（ピンク）>
愛情豊かで包容力があるの。ありのままの自分も大切。

<Yellow（黄色）>
私が主役！好奇心旺盛で自由に楽しく生きてます！

<Purple（紫）>
哲学者みたいに内面や本質を見ています。直感力や感性も高いよ。

<Oranse（オレンジ）>
楽しい人の元には人が集まる。人とのご縁も生まれるの。

<Blue（青）>
コミュニケーション力高し！常空でみんなに平等。心を大事にしてます。

<Red（赤）>
前向きで積極的。エネルギーに溢れて行動力抜群！

What color do you care about?

今日の私はどんな感じ？
さあ、色に聞いてみよう！

題　名：　What color do you care about?	氏　名：　SUZU

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

花咲かアートさん~2

前置き
５年前、洪水で郷瀬川の堤防に打ち上げられていた桑のきの根が目に止まり持ち帰る。
何処から流れ着いたのか、その複雑なこの思いと、色や形の良さに引かれ保管した。

作品について
あえて根を上に逆転させたのは根の力強さにある。
空間に向かう方が「風ぐるま」の動きやその姿と相まって「このイメージ」の形成を助長すると考え、此れを基本とした。

根の面由が発する空間の拡散と此れを包み込むイメージを確かにする為にワイヤーは「穏やかなカーブを描く」様に取り付けた。
点在する「風ぐるま」は上に向かう根の動きを受け、リズミカルな上昇のイメージを創出する。

造形物と自然物の強い対比を用い、印象に残る作品になるよう試みました。

題　名：花咲かアートさん~2	氏　名：根岸　和弘

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」

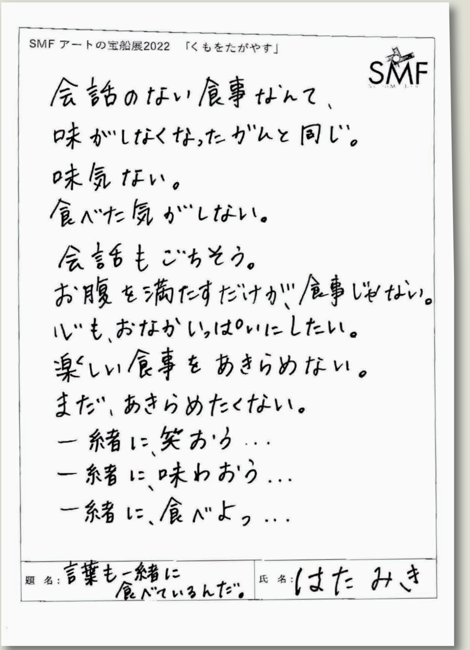
花咲かアートさん~2

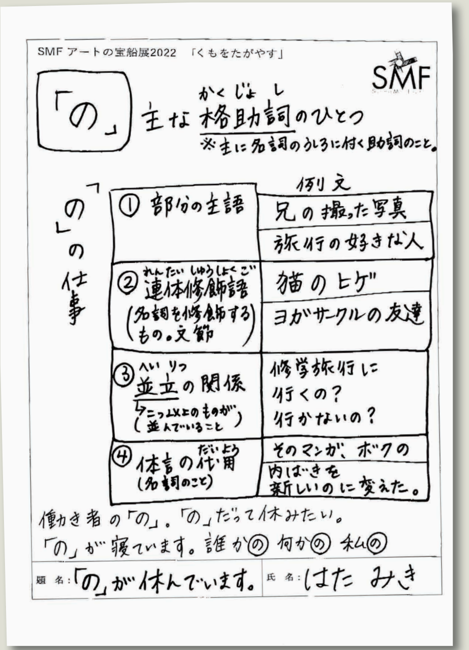
前置き
2009年「次開先の夏時」が予兆も無く枯れ、咲いたであろう花をイメージし「風ぐるま」約120個で切枯に花かせ完成した。
2020年に始まる「コロナ禍」自粛生活で戸惑いの日々、柳瀬川周辺のウオーキングで目にとまった、二つの事象に触発される。

1、桃ノ木
三年前に枯れてしまった、6m位の桃は春に先んじ沢山の花を咲かせ、地域の皆さんを楽しませました。今は黒々して沈黙、ただ立って居るだけこのインパクトから発想した。

2、名も知らない大木
昨年11月、洪水対策で河川敷の整理が始まり、重機で「引き裂かれた」大木、この衝撃的な姿からイメージした。
この二点は写真のコラージュとドローイングで夢シートに表現しエントリーしましたが、最近この大木は根ぶり起こり、夢のまた夢で枯れります。

題　名：　花咲かアートさん~2	氏　名：　根岸　和弘


SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
会話のない食事なんて、
味がしなくなったガムと同じ。
味気ない。
食べた気がしない。
会話もごちそう。
お腹を満たすだけが、食事じゃない。
心も、おなかいっぱいにしたい。
楽しい食事をあきらめない。
まだ、あきらめたくない。
一緒に、笑おう…
一緒に、味わおう…
一緒に、食べよっ…
題 名：言葉も一緒に食べているんだ。
氏 名：はた みき

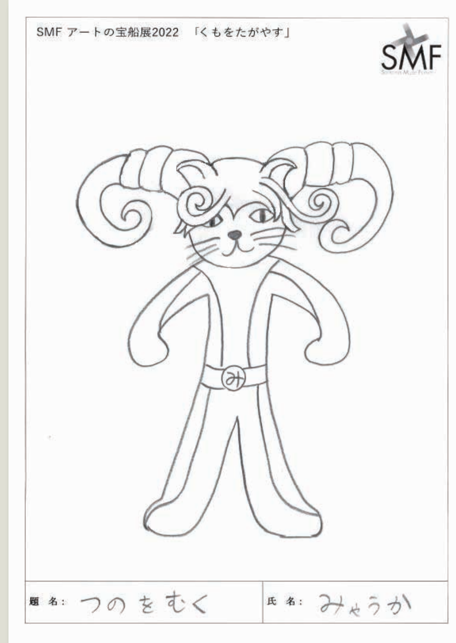

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
「の」 主な格助詞（かくじょし）のひとつ
※主に名詞のうしろに付く助詞のこと。
「の」の仕事
例文
① 部分の主語
兄の撮った写真
旅行の好きな人
② 連体修飾語（れんたいしゅうしょくご）（名詞を修飾するもの。文節）
猫のヒゲ
ヨガサークルの友達
③ 並立（へいりつ）の関係（二つ以上のものが並んでいること）
修学旅行に行くの？行かないの？
④ 体言の代用（だいよう）（名詞のこと）
そのマンガ、ボクの
内ばきを新しいのに変えた。
働き者の「の」。「の」だって休みたい。
「の」が寝ています。誰かの 何かの 私の
題 名：「の」が休んでいます。
氏 名：はた みき

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
Saitama Muse Forum
11074310
RECORD T
1/100秒毎に24時間変化し続ける「時」の前で、「映える」写真や映像を撮影してほしい。
0:05 / 1:49
パフォーマンス：映像散歩（映像アート作品RECORD T47を持ち歩く）
題 名：RECORD_T41
氏 名：菱田 祐一郎

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
Saitama Muse Forum
空を見上げる。くもをみる。
そして何を思い感じるか。広がる空に想いをよせる。そんな写真を集めてみました。
ちょっと聞いてみた
←あなたは何に見えますか？
・ウサギ
・頭に大砲が付いたネコ
・寝そべりながら棒を持っている猫
・お空に走り出す銀河鉄道
・鳥みたいな何かと、仰向けの赤ちゃんを横からみたところ
空とくもからあなたは何を感じますか。それが僕と同じ必要はない。
狭山丘陵で撮影した空の風景を展示します。
題 名：空とくもとそこから感じるもの
氏 名：平本 仁一

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
Saitama Muse Forum
3/20に以下の三作品を上演（上演時間：計15分）したいと思います。3/16〜19は、連日1〜2作品を可能な時間に複数回上演予定。
退屈
出演・松元日奈子
振付／藤井香
お伺いまで
出演・小関有希
振付／藤井香
人間をやめるとすれば冬の鵙
出演・藤井彩加
加藤楸邨／俳句 藤井香／振付
題 名： 負の心持も 耕作すれば ダンスのはじまり
氏 名：藤井 香

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
Saitama Muse Forum
M.HONDAの水彩画ブログ
絵になる、車と街の素敵な関係
題 名： 車のある風景
氏 名： M.HONDA


SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
題 名：つのをむく
氏 名：みゃうか

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
Saitama Muse Forum
重村三雄《風景の外側》を鑑賞し、そこに集う虫を制作するワークショップ。
制作方法：簡単キッチン鋳造 定員：１０名 時間：５０分程度
参加者が制作した虫は、《風景の外側》にナイロン テグスでくくり付けて
展示をする。
※埼玉県立近代美術館の収蔵作品《風景の外側》に直に展示する計画では、恐らく許可は下りない。
代案として、重村三雄《階段》の周辺はどうだろうか。。。 その場合、《階段に集う虫たち》となる。
題 名：ワークショップ《風景の外側に集う虫たち》
氏 名：矢花 俊樹

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
Saitama Muse Forum
「くもをたがやす」、
曇を耕すとタイルモザイクアートについて考えてみた。
ただただタイルを切ってならべていくこと、
これが、曇を耕すと表現されることではないだろうか。
長い時間はかかるが、タイルの絵はできていく。
うさぎの可愛さをタイルモザイクアートで表現できたらと思い、
コツコツ制作しています。
【制作過程】
題 名： 月の兎
氏 名： 小川真紀子

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
Saitama Muse Forum
私達が見ている星が夜空で輝いている理由は、もしかしたら実はもっと違った理由があるのかもしれない！サンテグジュペリの『星の王子さま』を読んだときに得た、地球と星について新しい感覚が広がった感動を思い出しながら制作しました。星の輝きやエネルギーは昼でも夜でも降り注いでいて、日中見えている雲にささやきかけている。私たちの目には見えないが、太陽・月・星のそれぞれの特性はもっと違う関係性があるのかもしれない。星の周りは波紋が広がっていて、光の波動が何重にも注がれて大気を豊かに潤しているのかもしれない。小さな星は細かな粒子を纏っていて、その粒が大気を浮遊して雲の栄養になっているのかもしれない。そんな星と雲の物語を思い描いていると、「星はつねにささやいて雲をたがやしている」というイメージを持ち、「雲は絶えず変化しているが、星は安定して瞬きを保っている」関係性に着目しました。雲は、その形や大きさで季節の移ろいを私たちの心が感じ取るのに対し、星は、日中には見えないが常に静かに見守る存在のようで、興味深く感じました。心の目で見ると何か違った問いかけに気づくことができる、そんな星をモチーフにして制作することにしました。
「星」は七宝で制作し、「星の波動や小さな星」はタイルをカットしモザイク技法で表現しました。使用した素材は、ガラスタイル、七宝、ビーズ、磁器タイルです。タイルの厚みが違って凹凸が表面にあるのが立体感を出せたらと、目地の隙間の間隔を変えることで散らばっている様子を表せたらと工夫しました。ベニヤ板は花形のドーナツ状でお花のように感じて楽しんで見ていただけたら大変嬉しいです。
【製作過程】
題 名：星はいつも静かにささやいている
氏 名：山口素子

SMF アートの宝船展2022 「くもをたがやす」
SMF
Saitama Muse Forum
見ていると、穏やかな明るい心になれるような作品作りをしたいと考えています。
今回の作品は、蔵王連峰 “氷”と“雪”の芸術品
「スノーモンスター」とも呼ばれている“蔵王の樹氷”
２年前に行った蔵王。家族と一緒に、冷たい空気を感じながら、明るい薄雲に覆われた青空の中、気持ちよく滑った時の写真をもとにして作りました。自然は、私たちに豊かな心の動きを与えてくれます。この作品を作る中で、心を動かされた自然の偉大さや豊かさに思いを深め、感動したことを思い出し、もう一度味わうことができました。
「くもをたがやす」は、わたしにとって、「心を動かし、思いを膨らませること」見ていただいた方が、樹氷原を一緒に滑り、自然の素晴らしさに思いを膨らませて、明るい気持ちになっていただけると嬉しいです。
アートクラフトタイルとガラスタイルを使用して、カットの仕方を工夫してみました。
題 名： 樹氷原の中で
氏 名： 三村 豊子

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」アワード結果報告

SMF宝船展2022「くもをたがやす」では新たな試みとして、ご来場いただいた皆さまに気になる作品へ投票をしていただくアワードを開催しました。この試みは単にベスト1を決めるという趣旨ではなく、得られたデータを基に来場者の年齢や属性（来場のきっかけ等）による観点の違いを分析し、来場者がどのように展覧会を楽しんだのかを紐解いてみよう、という試みです。最終的な来場者476名のうち121名の方に投票していただきました。簡単ではございますが以下に集計結果をまとめましたのでご報告いたします。

投票総数121（来場者の1/4件の内訳は、女性68名、男性52名、その他１名で、（図1）に「性別」と「来場のきっかけ」の相関をまとめてみました。来場のきっかけは「友人」と「関係者」の合計が男女ともに約半数を占め、チラシやWebといったメディアより大きく上回っていました。ちなみに「その他」の内訳は、「企画展を見に来て」や「他の展示のついで」、「たまたま」等、フリーの来場者であることが明らかとなりました 。

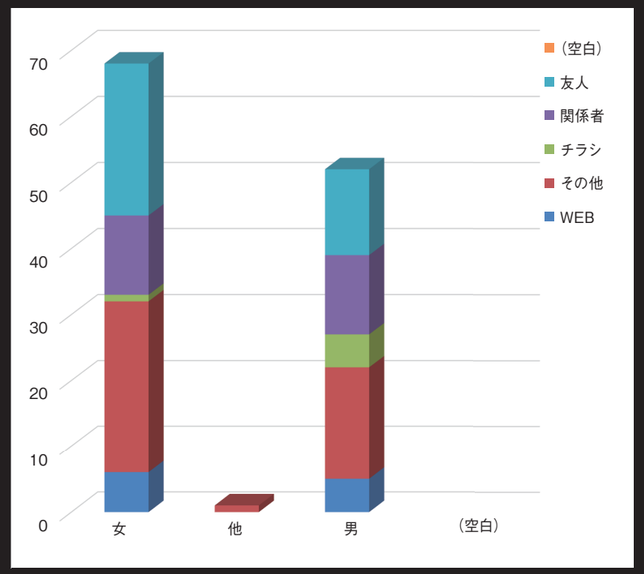


図 1

作品への投票と年齢との相関を示したものが図2となります。作品への投票は複数回答を可としましたので投票総数が計224件となっています。

作品への投票は、⑪SYUTA（三友周太）氏の「耕雲機Cloud Cultivator」を1位として、⑥加藤こどもの造形教室の「『SOSぜつめつみき』『その実り』」が2位、⑩社会芸術／ユニットウルスの「野良の藝術 2021:evolve さぎ山の現場『鎮魂と再起』」が3位と続きました。全体的な傾向としてはバランスよく多数の年齢層から支持を集めた作品が上位にランキングされましたが、一部の作品が高い年齢層を中心に支持を集めたり、逆に若い年齢層の支持が中心となる作品があったりなど、作品ごとに支持層に違いがあることが明らかとなりました。

ぜひ二つの図表をご確認いただき、ご自身の作品に寄せられた声に耳を傾けていただければ幸いです。

石上城行（SMF副代表）

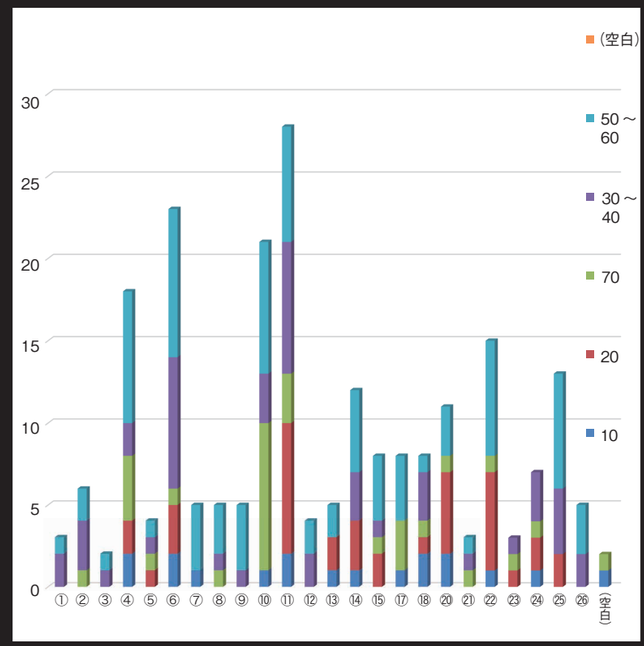
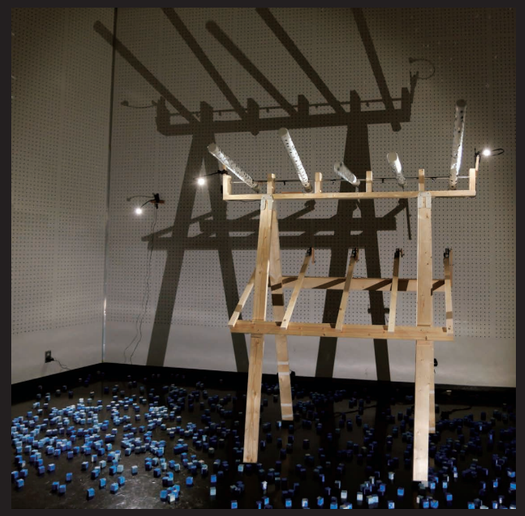


図 2（※①～㉖の作品番号を表紙裏面の資料「出展者、作品一覧」と照らし合わせてご確認ください）

くもをたがやすアワード発表


SYUTA（三友周太）「耕雲機Cloud Cultivator」

加藤こどもの造形教室　「SOS ぜつめつみき」、「その実り」

社会芸術／ユニットウルス　野良の藝術 2021:evolve さぎ山の現場「鎮魂と再起」

SMF宝船展 2022「くもをたがやす」アワード 入賞者一覧

1位「多くの人を楽しませたで賞」「耕雲機 Cloud Cultivator」 SYUTA（三友周太）
2位「子どもたちと頑張ったで賞」「SOS ぜつめつみき」、「その実り」 加藤典子＋加藤こどもの造形教室
3位「仲間と力を合わせたで賞」「野良の藝術 2021:evolve さぎ山の現場『鎮魂と再起』」
社会芸術／ユニットウルス（奥田祥吾）（ユニットウルスのプロジェクト報告展示、ダンスパフォーマンス:蒼浩人、環境カフェ:多田満）
4位「色々な空が美しかったで賞」「コロナと空、人」 内野知樹
5位「美しい景色だったで賞」「車のある風景」 M.HONDA
6位「凄い超絶技巧だったで賞」「ワークショップ（風景の外側に集う虫たち）」 矢花俊樹
7位「完成して良かったで賞」「Collective Projection 2022」 東京電機大学 作曲・音楽文化研究室（菅原聖秀）

Kumo Wo Tagayasu Award

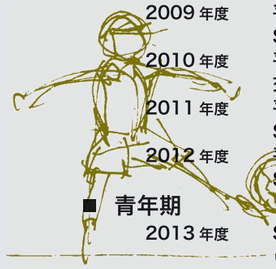
SMF履歴書

■ **幼年期**（PRE SMF 時代）

2002 年　ヒアシンスハウスをつくる会、発足
2004 年　ヒアシンスハウス竣工
2006 年　さいたまアート懇話会
2007 年　さいたまアートフォーラム研究会

■ **少年期**

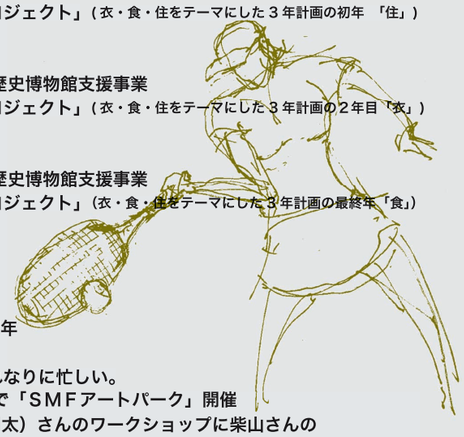
2008 年度　SMF 発足
平成 20 年度 文化庁「芸術拠点形成事業」（ミュージアムタウン構想の推進）
LINK! ミュージアムからアートの風を !!「風の記憶」…… アート竜巻フェスタ 2008



2009 年度　平成 21 年度 文化庁「美術館・博物館活動基盤整備事業」
SMF アートのわっ！「風の行方」…… あつまれアートのつむじ風 2009
2010 年度　平成 22 年度　文化庁「美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業」
交差する風 織りなす場「風の軌跡」…… SMF アート楽座・アートバンク 2010
2011 年度　平成 23 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化支援事業）
Saitama Art Platform 形成準備事業「つながる Heart Art」
2012 年度　平成 24 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化支援事業）
Saitama Art Platform 形成準備事業「ひろがる」

■ **青年期**

2013 年度　SMF の組織化
（会則の作成、会員の会費による運営、フォーラムの開催とフォーラムの決議による運営）
2014 年度　平成 26 年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
あなたとどこでもアート「小さな家プロジェクト」（衣・食・住をテーマにした３年計画の初年 「住」）
「アート長屋」建設
「アートのまつり」開催
2015 年度　平成 27 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「着がわりプロジェクト」（衣・食・住をテーマにした３年計画の２年目「衣」）
「アート長屋」入居開始
「宝船展Ⅰ」開催
2016 年度　平成 28 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「おかわりプロジェクト」（衣・食・住をテーマにした３年計画の最終年「食」）
「宝船展Ⅱ」開催
さいたまトリエンナーレ 2016 に参加
「SMF 学校」運営



■ **成年期**

2017 年度　組織化された SMF の自立した活動の初年
「宝船展 2018 @ MOMAS」開催

2018 年度　親ばなれして自立しようとすれば、それなりに忙しい。
大宮アートフェスティバル 2018 で「ＳＭＦアートパーク」開催
入間市博物館では SYUTA（三友周太）さんのワークショップに柴山さんの
「電子音響ピープル」、北浦和の商店街に光るきたうらワンが
現れたり、ハロウィンで「変身★自分仮面を作ろう」等々々……
「宝船展 2019 @ MOMAS」開催
2019 年度　埼玉県立近代美術館「MOMAS のとびら」参加
「フワリつばさで鏡の国を飛んでみよう」
「美術館に象が遊びにきたゾウ！」
「化石発掘★簡単鋳造で古代の生き物をつくろう！」
「きたうらわアートウィーク 花・花・花」（北浦和西口ハッピーロード・ふれあい通り）参加
さいたま国際芸術祭 2020 公募プログラム「SMF 宝船展 2020」開催
宝船展 ON THE NET/ 宝船展 @雲をつかむ / 宝船展 @ MOMAS
（宝船展 @ MOMAS はコロナ禍による埼玉県立近代美術館閉館により中止）
2020 年度　令和 2 年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業「SMF with コロナ」開催
アート寺子屋 / アート井戸端 / 宝船展@アート長屋
「宝船展@ MOMAS2021」（くもをつかむ）開催
2021 年度　令和 3 年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業
「SMF アートコロニイプロジェクト - ヒアシンスハウス編」開催
「宝船展@ MOMAS2022」（くもをたがやす）開催

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」を終えて

あらためて履歴書を読み返してみると、第1回目が開催されたのが6年前、その後毎年の恒例となったSMFのアンデパンダン展がこの「宝船展」です。当初は会場となる埼玉県立近代美術館の一般展示室が空きがちな正月明けに行われていたのでこの名前で始まった展覧会でしたが、近年では年度末に時期を移し、その年度の集大成を翌年度に運ぶ「宝船展」として定着する様子です。コロナ禍のために一度は中止となって年を越した昨年は浮かんだ雲に夢を描く「くもをつかむ」がテーマとなり、その夢がさらに成長するように、今回は「くもをたがやす」がテーマに選ばれました。多士済々の出展者による多種多様なアートを、会場であるいはこの記録集でご堪能いただけたでしょうか。

「宝船展」にはその前身があります。それが「SMFさんなすび展」で、提案されたアートプロジェクトのアイディアからアートの専門家同士が結びつき、その協働から起こる思いがけない化学変化が期待された企画だったと56頁で語られていますが、その期待が「エントリーシート」に、そしてこの「宝船展」へと継承されてきています。

いま専門家同士と筆を滑らしましたが、生業かどうかに拘わらずアートプロジェクトの夢を追う者は総てアートの専門家です。専門家にはプロフェッショナルとスペシャリストの二様があり、プロフェッショナルは神から信託され専門知識を駆使する専門家、アートの表現者同士が作品を通して巡り会うときには、外なる神か内なる神かはともかく、プロフェッショナルとしての協働になるのだろうと思います。

一方、知識や技術の専門性をよりどころにするのがスペシャリストです。その知見で下支えする協働の形もあるはずで、今回の「宝船展」ではその成果が大いに発揮されました。

昨年から長野恒さんが会場のレイアウトを引き受けて下さっています。建築家の長野さんは大手デパートの設計部長の経験から、こうした会場設営がお手のもの、昨年は入口にアイストップとなる壁面を工夫し、今回はさらにその背後に筋違いに配した壁で独特の展示空間をデザインされたのです。その構成に呼応した作品キャプションと出展者の名札は中村隆さんのデザインと、会員らによって耕されワンランクアップした「宝船展」が開催できたと自慢してもいいでしょう。

そして「宝船展」は来年も。成年期でいっぱいになった履歴書をめくると、現れるのは盛年期か壮年期かあるいは熟年期か、くもをたがやした次の頁にはどのような協働が記されてゆくのか、お楽しみはこれからも続きます。

三浦清史（SMF代表）

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」
会期：2022年3月16日〜20日
会場：埼玉県立近代美術館 一般展示室1
主催：SMF（サイタマミューズフォーラム）
共催：埼玉県立近代美術館
会場レイアウト：長野恒

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」ワーキンググループ
浅見俊哉、石上城行、植森侑子、加藤典子、かわにしすみえ、柴山拓郎、長野恒、中村隆、中村誠、菱田祐一郎、藤井香、丸藤晃代、三友周太、三浦清史

SMFアートの宝船展 2022「くもをたがやす」記録集
発行：SMF（サイタマミューズフォーラム）
http://www.artplatform.jp（SMFホームページ）
http://www.artnagaya.jp（SMFアート長屋）
SMFホームページ　SMFアート長屋
編集：中村誠
デザイン・印刷：有限会社アームズ（中村隆）
写真撮影：中村元、浅見俊哉、各出展者
2022年5月30日発行

http://www.artplatform.jp